

# 小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2023年4月から6月
2. 調査対象：小樽市内の企業269社
3. 内 訳：製造業59、卸売業27、小売業45、運輸・倉庫業20、観光業46  
サービス業39、建設業33
4. 回答企業数：158社（58.7%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

## 概 況

### －業況、売上、採算全てプラス水準に 各種経費の上昇、従業員不足が課題－ 前年同期（2022年4月～6月）と比べた今期（2023年4月～6月）の状況 今期と比べた来期（2023年7月～9月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは23.1で、前年同期と比べ24.1ポイント上昇し、プラスに転じました。業況は4期連続、売上は5期連続のプラス水準で、採算は各種経費の高騰により低調に推移しているものの、2015年度第3四半期調査以来のプラス水準となりました。売上DIは全ての業種でプラスとなり、卸売業、小売業、観光業、サービス業では主要3項目DI全てがプラスとなりました。前期に引き続き、原材料価格や燃料費の高騰、経済活動や人流の増加に伴う従業員不足が課題です。

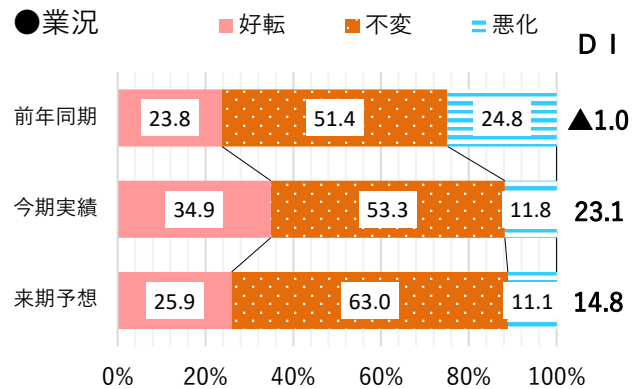
業種別業況DIは、製造業が同23.5ポイント上昇の▲6.2となりました。売上DIはプラス幅を伸ばしましたが、業況DIと採算DIはマイナス水準で推移しました。食料品、金属製品の全企業で原材料仕入価格が上昇しました。卸売業は同42.1ポイント上昇の42.1となり、主要3項目DI全てが大幅に上昇しました。業況、売上、引合いは全企業が増加または不変と回答しており、堅調に推移しました。小売業は同6.6ポイント上昇の10.5となりました。売上DIはほぼ横ばいで、採算DIはプラスに転じました。食料品を中心に売上や採算の好転傾向が見られましたが、家電や家具を扱う大型店、ホームセンターでは売上や客数が減少しました。運輸・倉庫業は同36.8ポイント上昇の13.3となりました。旅客は全企業で売上が増加しましたが、従業員が不足しています。貨物や倉庫では約4割の企業で売上が減少しました。観光業は同0.1ポイント上昇の66.7となりました。売上DIと採算DIは低下しましたが、プラス水準をキープしています。7割超の企業で売上や利用客数が増加しましたが、ほぼ全ての企業で仕入単価が上昇しました。約7割の企業で従業員が不足しています。サービス業は同20.7ポイント上昇の25.0となりました。売上DIと採算DIも上昇し、プラス水準となりました。飲食店と写真業の全社で仕入価格が上昇しました。建設業は同14.5ポイント上昇の10.0となり、プラスに移行しました。売上DIが大幅に伸長し、プラスとなりましたが、採算DIは低下し、マイナス幅を拡大しました。従業員DIは前年同期比で大幅に上昇し、プラスに転じましたが、従業員不足は依然として主要な課題です。

来期の業況判断DIは14.8で、好転傾向が続くと予想しています。観光業を中心に売上や客数の増加が見込まれますが、全ての業種で仕入単価や経費の上昇による採算の悪化が課題です。

業況、売上、採算

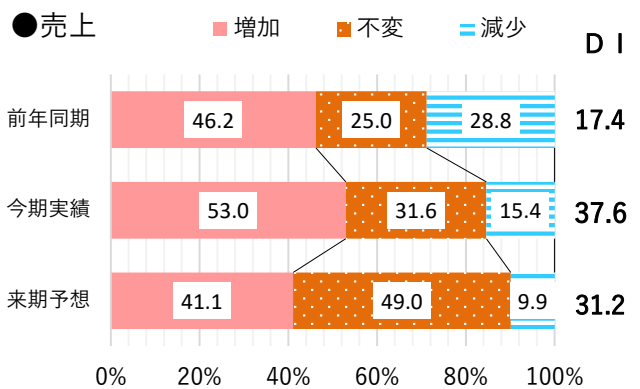
今期（2023.4～6）の業況判断DIは23.1で、前年同期（2022.4～6）と比べ24.1ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期（2023.7～9）は、業況の好転傾向が続くと予想しています。



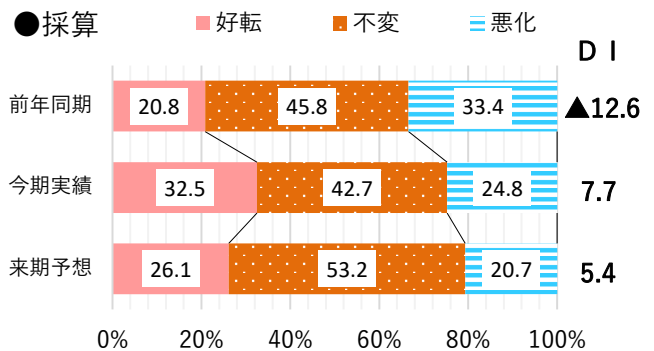
今期の売上DIは37.6で、前年同期と比べ20.2ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。

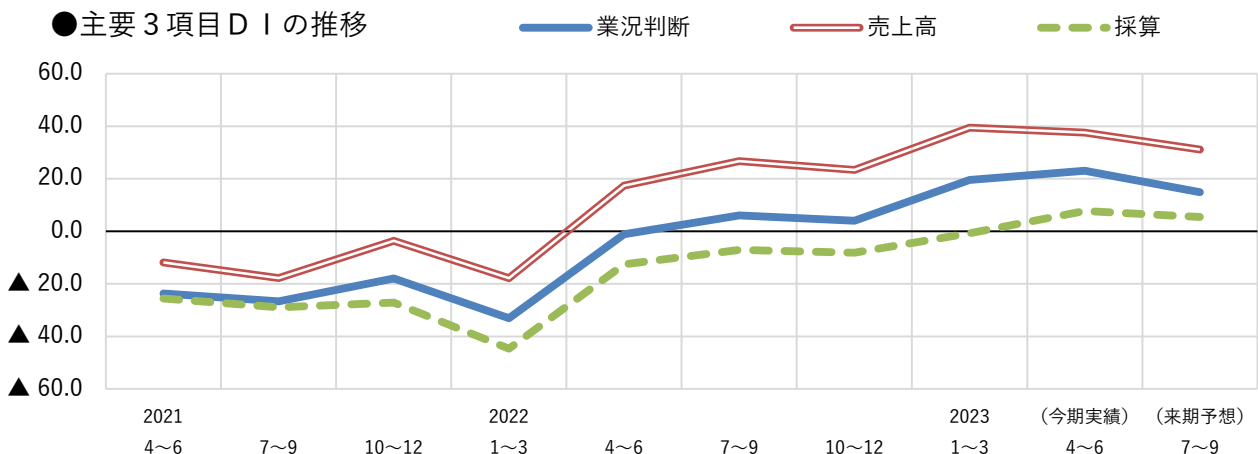


今期の採算DIは7.7で、前年同期と比べ20.3ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、採算の好転傾向が続くと予想しています。



●主要3項目DIの推移



従業員、今期の雇用状況

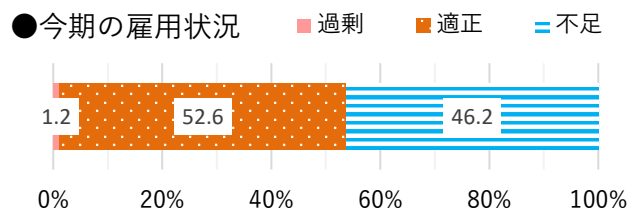
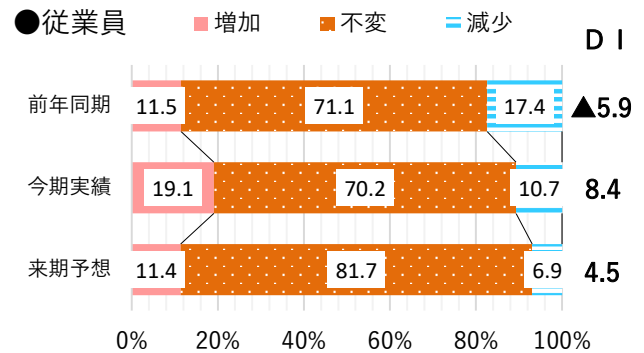
今期の従業員DIは8.4で、前年同期と比べ14.3ポイント上昇しプラスに転じました。

来期は、従業員数に大きな変化はないと予想しています。

今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は1.2%、適正であると回答した企業の割合は52.6%、不足していると回答した企業の割合は46.2%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、41.7%を占めました。

回答全体では、50.6%が適正規模の従業員を確保できていると回答しましたが、48.1%は従業員不足と回答しています。

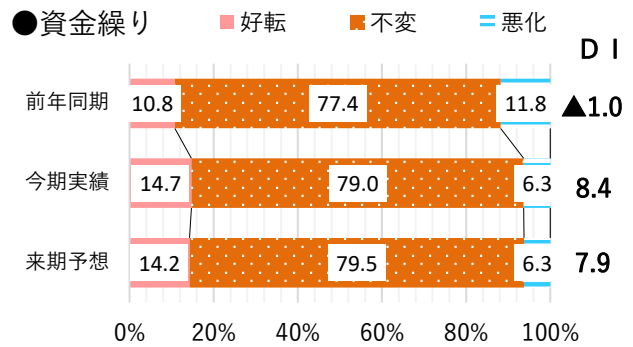


今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	12
	不足	21
不変だった	過剰	1
	適正	66
	不足	39
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	16

資金繰り、設備投資

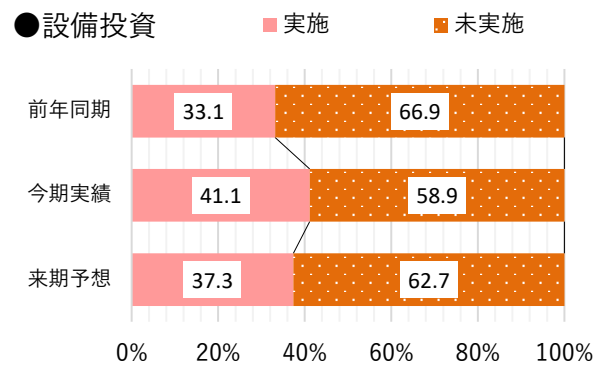
今期の資金繰りDIは8.4で、前年同期と比べ9.4ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった158社の41.1%にあたる65社が実施、前年同期と比べ8.0%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「建物」、「付帯施設」(同位)の順です。

来期は、37.3%にあたる59社が設備投資を計画していると回答しています。

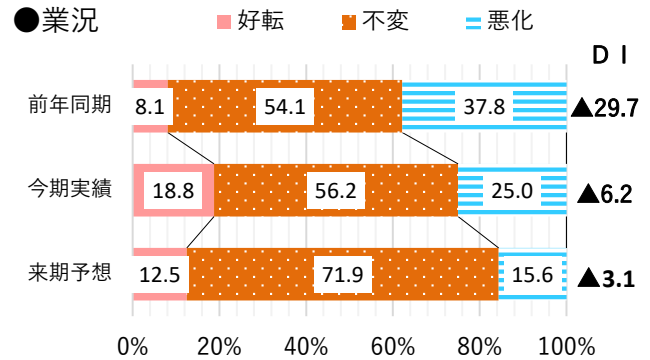


# 製造業

## 業況、売上、採算

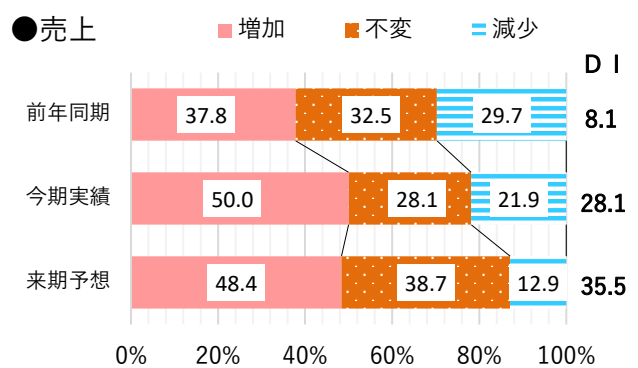
今期(2023.4~6)の業況判断DIは▲6.2で、前年同期(2022.4~6)と比べ23.5ポイント上昇しました。

来期(2023.7~9)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



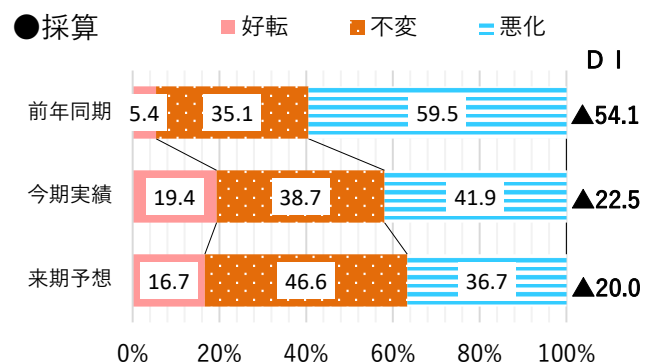
今期の売上DIは28.1で、前年同期と比べ20.0ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が強まると予想しています。

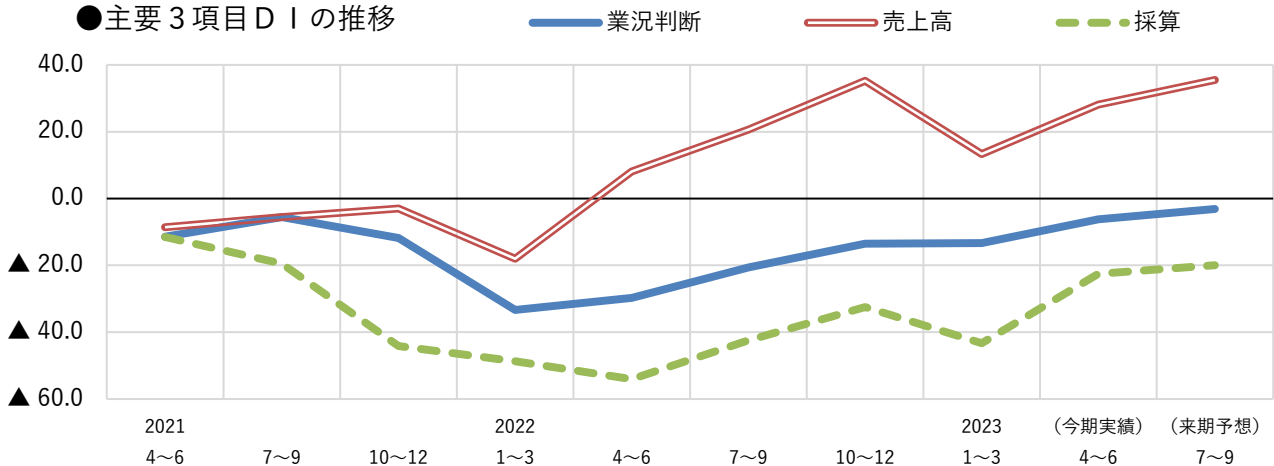


今期の採算DIは▲22.5で、前年同期と比べ31.6ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



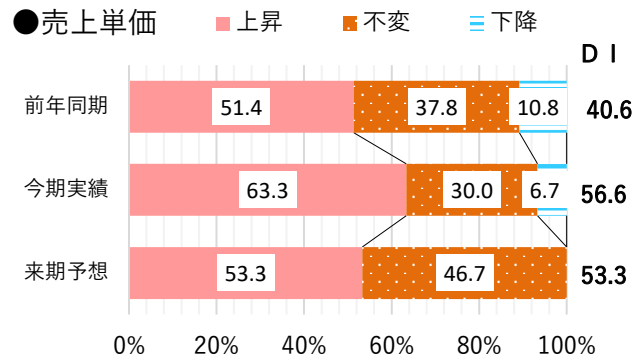
### ●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

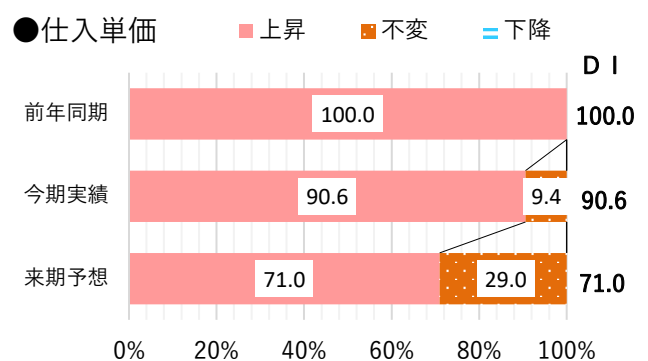
今期の売上単価DIは56.6で、前年同期と比べ16.0ポイント上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が続くと予想しています。



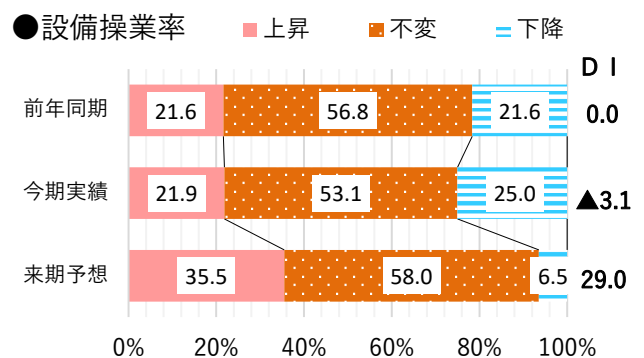
今期の仕入単価DIは90.6で、前年同期と比べ9.4ポイント低下しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは▲3.1で、前年同期と比べ3.1ポイント低下しました。

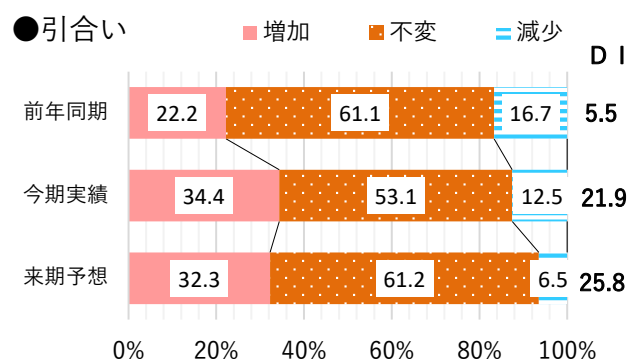
来期は、設備操業率が大幅に上昇しプラスに転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは21.9で、前年同期と比べ16.4ポイント上昇しました。

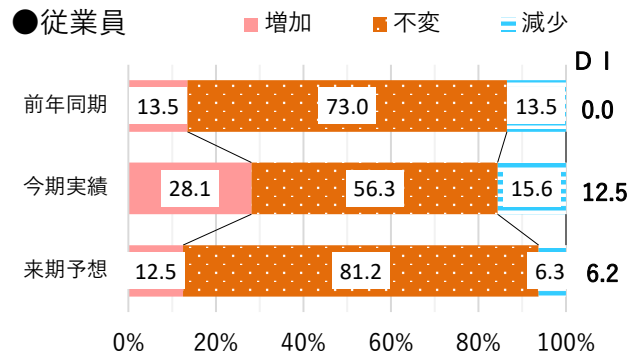
来期は、引合いの増加傾向が続くと予想しています。



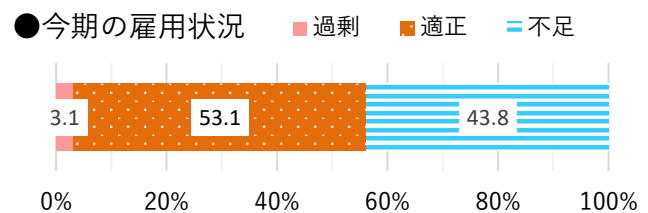
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは12.5で、前年同期と比べ12.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は3.1%、適正であると回答した企業の割合は53.1%、不足していると回答した企業の割合は43.8%でした。



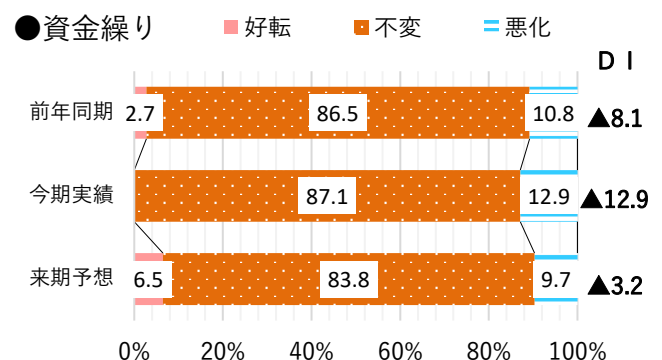
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、40.6%を占めた「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。4割超の企業で従業員が不足している状況にあります。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	5
不変だった	過剰	1
	適正	13
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	5

資金繰り、設備投資

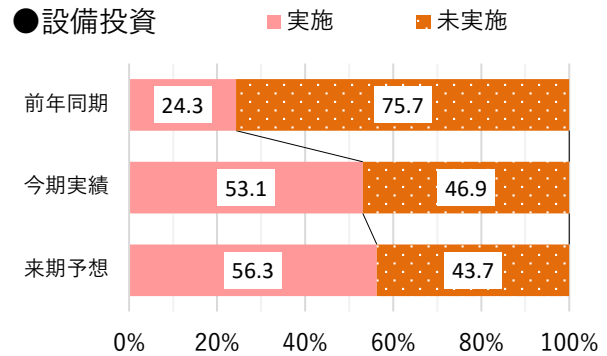
今期の資金繰りDIは▲12.9で、前年同期と比べ4.8ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



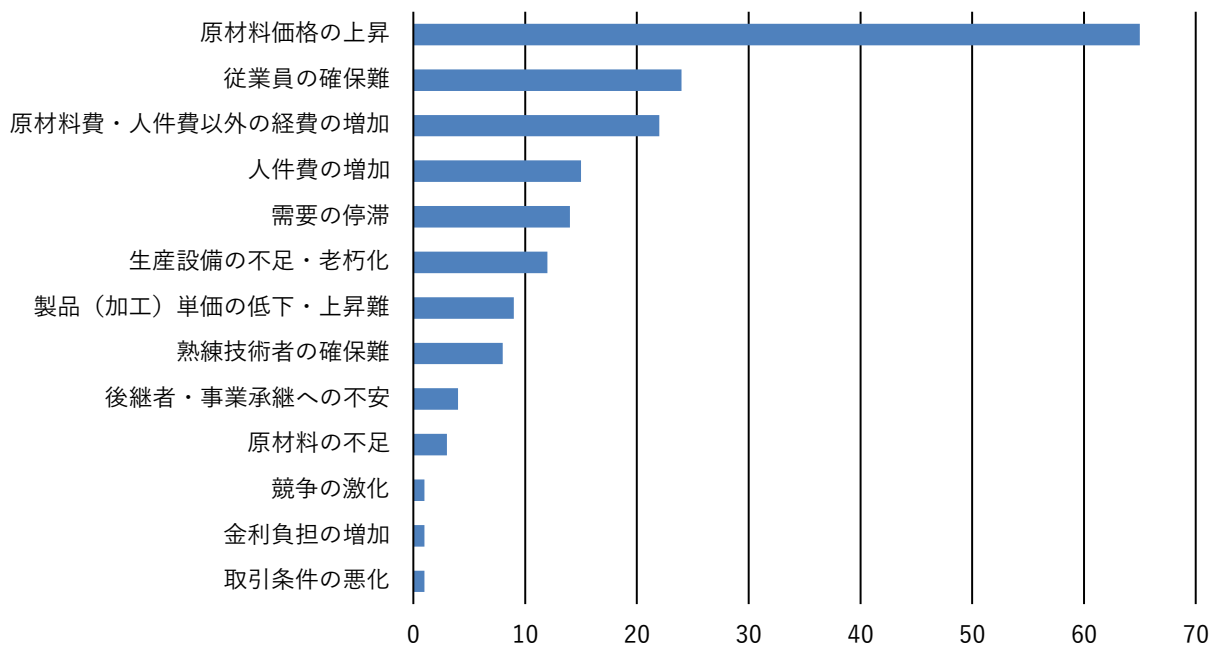
設備投資を実施した企業の割合は53.1%で、前年同期と比べ28.8%上昇しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は56.3%で、増加を予想しています。



### 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「原材料費・人件費以外の経費の増加」の順です。



### 企業の声

[今期の業況について]

- 販売価格を引き上げたが、材料費、材料副費、包装資材価格等の上昇により製品原価が上昇した。燃料費や電気料金といった諸経費の上昇も踏まえ、業況判断は据え置いた。（食料品）
- 決算では過去最高の売上高を見込んでいる。仕入価格は前年同期で50円程増加した。人材の増減があったものの、従業員数は維持できている。（食料品）
- エネルギーや原材料価格の高騰、円安、加工品販売の一服感により、業況は悪化した。（食料品）
- 原材料価格や人件費の上昇に価格転嫁が追いつかず、収益が悪化した。（食料品）
- 好転した。外国への輸出が増えているため、今後も好転を見込む。（食料品）
- 仕入価格が上昇した。（食料品）
- 新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことで、家飲み需要が減少した。昨年行った製品の値上げも影響し、苦戦した。（飲料）



- 世界情勢の悪化により、原材料価格が上昇した。（飲料）
- 全体的な工程の遅れにより、短期では計画にズレが出ているが、長期的には予定通りの推移を見込む。求人への反応は相変わらず悪く、業界として賃金や待遇等の見直しが必要と思われる。（金属製品）
- 売上は増加しているが、仕入価格、電気料金、人件費等も上昇している。販売単価を引き上げても、トータルの業況は変わらない。（金属製品）
- 人材確保が課題だ。（金属製品）
- 製品価格の引き上げに伴い、売上単価が上昇したが、販売数量が減少傾向にあり、原材料価格の値上げも懸念される。（紙製品）
- 販売重量は減少したが、昨年度の販売価格引き上げの効果で売上が増加した。原料仕入価格は原油と輸入ナフサの価格が基準で、円安が仕入価格の上昇につながった。人材は学卒者1名を採用し、中途採用1名の内定が決まっているがまだ1名不足している。新卒、中途社員の採用にあたり賃上げを実施する。商権消失を覚悟の上で製品値上げを実行したが、原材料価格上昇分をカバーしきれていない。運賃、電力、賃金等の上昇分は製品価格の値上げに含まれておらず、メーカー負担となっている。（プラスチック）
- 売上は増加したが、原材料仕入価格の上昇分を価格転嫁できておらず、電気料金や運賃の上昇分の転嫁は納入先から理解を得られていないため、採算は改善していない。（プラスチック）
- 製品価格の引き上げ等により、売上は増加傾向にあるが、原材料仕入価格や電気料金の高騰により利益率が悪化しているため、総合的には不変と判断する。（プラスチック）
- 原材料、輸送費、電気料金、人件費の負担が増加しており、厳しい状況が続く。（プラスチック）
- 仕入価格や電力料金の引き上げが負担だ。土木関係の低迷で業況が伸び悩んでいる。（その他繊維製品）

## [来期の業況について]

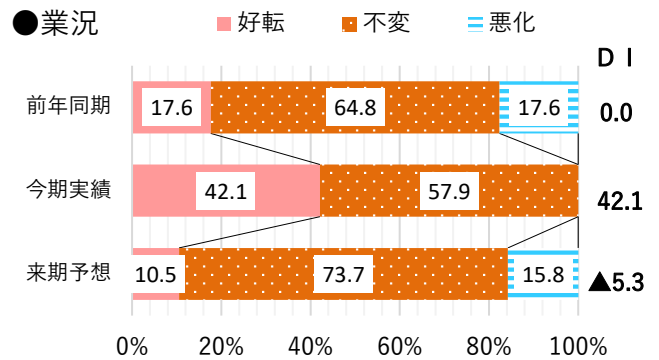
- 安定した売上を見込む。仕入価格は世界情勢に影響されるため、予想が難しい。人材は外国人技能実習生の増加により、安定確保できる見込みだ。収益の改善を予想する。（食料品）
- 今期同様、エネルギーコストの上昇、原料価格高騰、円安、加工品販売の不服感が続く。本格的な生産期に入るが、販売及び掛掛債権の回収は10月以降となる。（食料品）
- 仕入価格の継続的な上昇が懸念される。人材確保、最低賃金の上昇に見合う価格改定をどこまで出来るのか、見通しを立てづらい。（食料品）
- 価格転嫁の予定はあるので、下半期に向け収益の改善を見込む。（食料品）
- 引き続き輸出に注力するため、好転を予想する。（食料品）
- 仕入価格の上昇が続く。（食料品）
- 自社商品のコンクール入賞を目指し、その結果を商戦に生かしたい。お中元商戦に新商品を投入し、売上の挽回を図る。（飲料）
- 原材料価格の上昇が続く。円安による輸入価格への影響も大きい。（飲料）
- 仕入価格の上昇が多品目に渡り断続的に続いている。一度価格改定されても、短期間で次の価格改定が行われるため、先の案件に対する価格交渉の感覚を変えていく必要がある。（金属製品）
- 大型物件はあるが中規模の物件が減っており、不安を感じている。資材費は落ち着いてきたので、中小規模の物件が増えてくると助かる。（金属製品）
- 売上、原材料価格、人材の状況は今期と同様を見込む。最低賃金の引き上げは政府方針に従い実施する。利益確保のため製品価格引き上げを継続する。（プラスチック）
- 7～9月は国から電気料金の助成を受けられるため、企業努力で対応可能だが、10月以降は助成がないため、厳しい状況が見込まれる。（プラスチック）
- 今期同様に売上は増加するが、利益率は悪化するため、不変と判断する。（プラスチック）
- 製品価格の引き上げを目指すが、見通しが立たない。（プラスチック）
- 気候変動、原材料価格の高騰、2024年問題といった不安要素の影響が懸念される。（紙製品）
- 官庁からの受注増加を見込むが、対応する技術労働者が不足しており、発注の増加に対応できていない。募集をかけても人材が集まらない状況だ。（衣服）
- 見積済の業務の受注が決まりつつある。官公庁からの受注増加を見込む。（その他繊維製品）

# 卸 売 業

## 業況、売上、採算

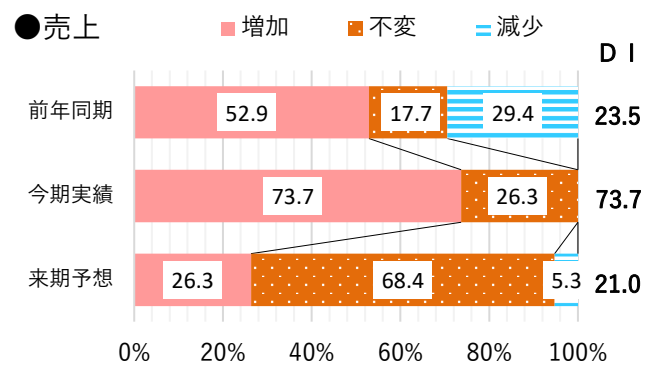
今期(2023.4~6)の業況判断DIは42.1で、前年同期(2022.4~6)と比べ42.1ポイントと大幅に上昇しました。

来期(2023.7~9)は、業況が大幅に悪化し、マイナスに転じると予想しています。



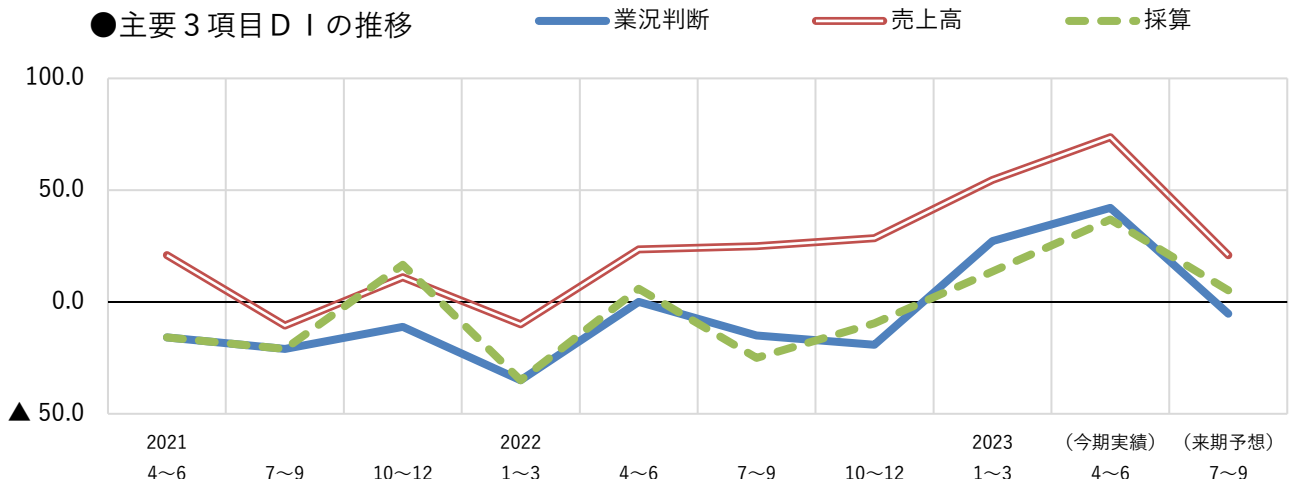
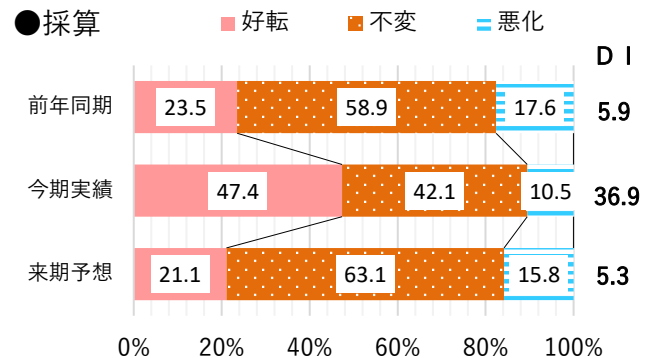
今期の売上DIは73.7で、前年同期と比べ50.2ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の採算DIは36.9で、前年同期と比べ31.0ポイントと大幅に上昇しました。

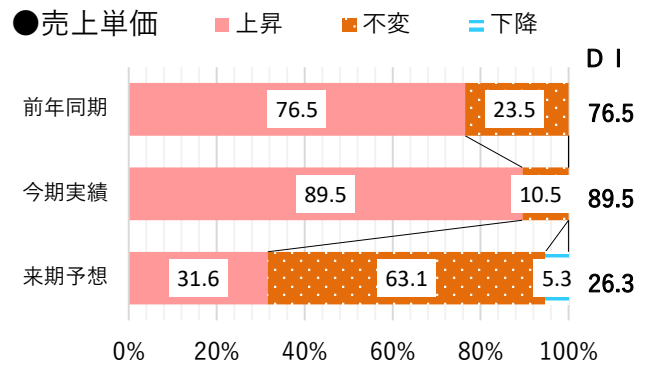
来期は、採算の好転傾向が大幅に弱まると予想しています。



## 売上単価、商品仕入単価

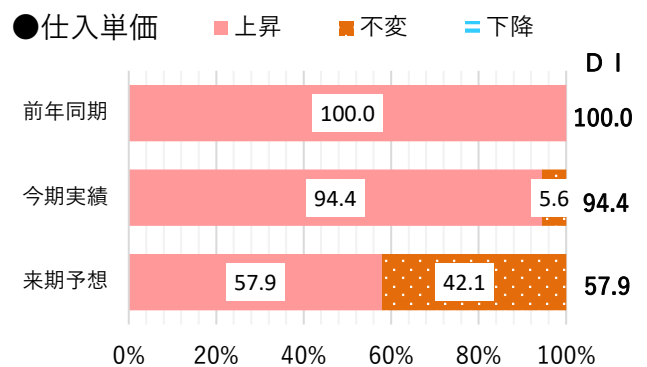
今期の売上単価DIは89.5で、前年同期と比べ13.0ポイント上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは94.4で、前年同期と比べ5.6ポイント低下しました。

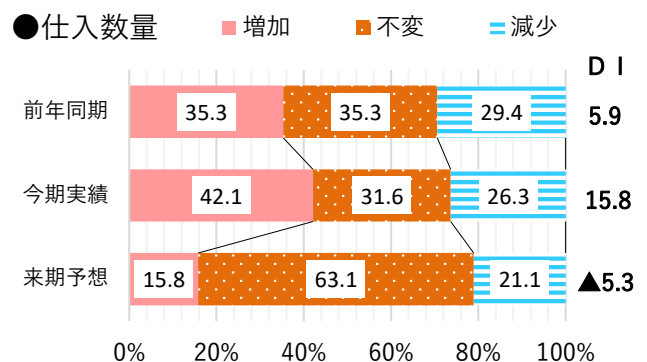
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



## 商品仕入数量、商品在庫数量

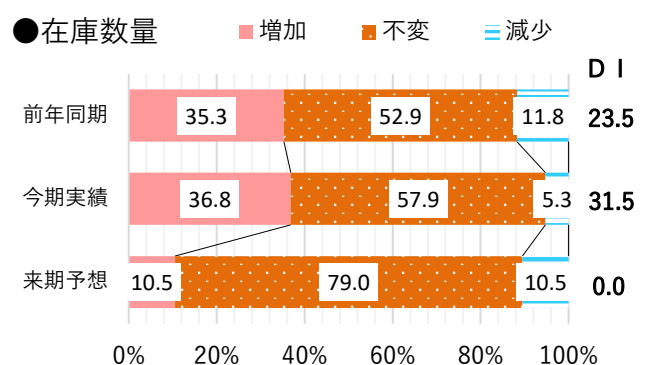
今期の仕入数量DIは15.8で、前年同期と比べ9.9ポイント上昇しました。

来期は、仕入数量が減少に転じると予想しています。



今期の在庫数量DIは31.5で、前年同期と比べ8.0ポイント上昇しました。

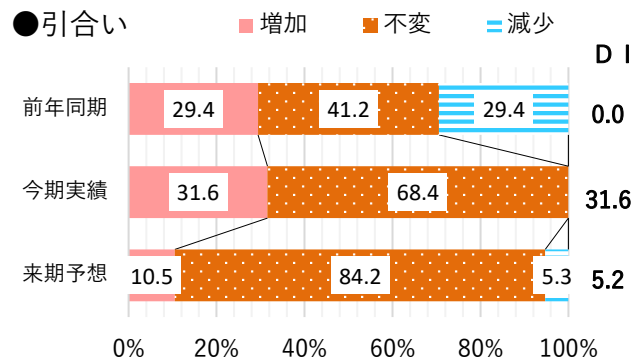
来期は、在庫数量の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



## 引合い

今期の引合いDIは31.6で、前年同期と比べ31.6ポイントと大幅に上昇しました。

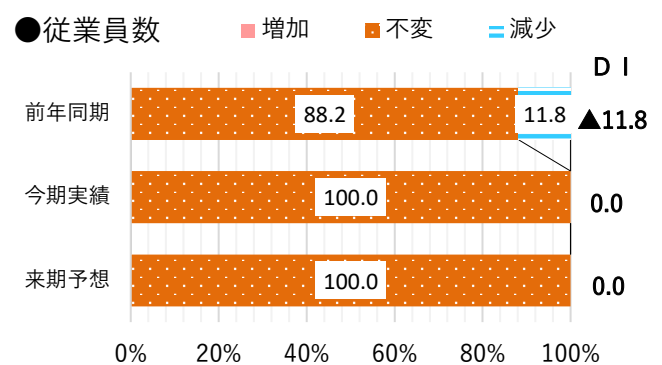
来期は、引合いの増加傾向が弱まると予想しています。



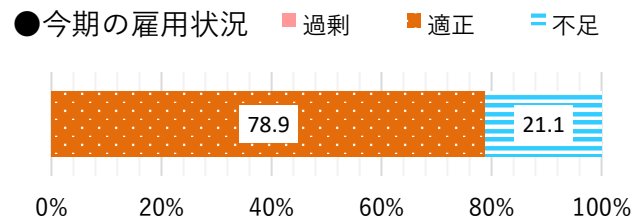
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ11.8ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は78.9%、不足していると回答した企業の割合は21.1%でした。



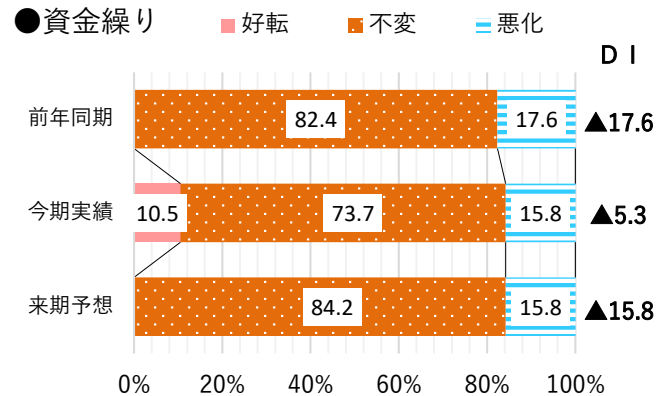
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の78.9%を占めており、不足と回答した企業は約2割でした。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	15
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	0

## 資金繰り、設備投資

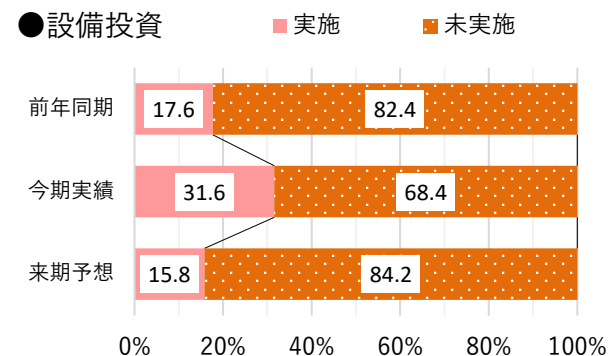
今期の資金繰りDIは▲5.3で、前年同期と比べ12.3ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



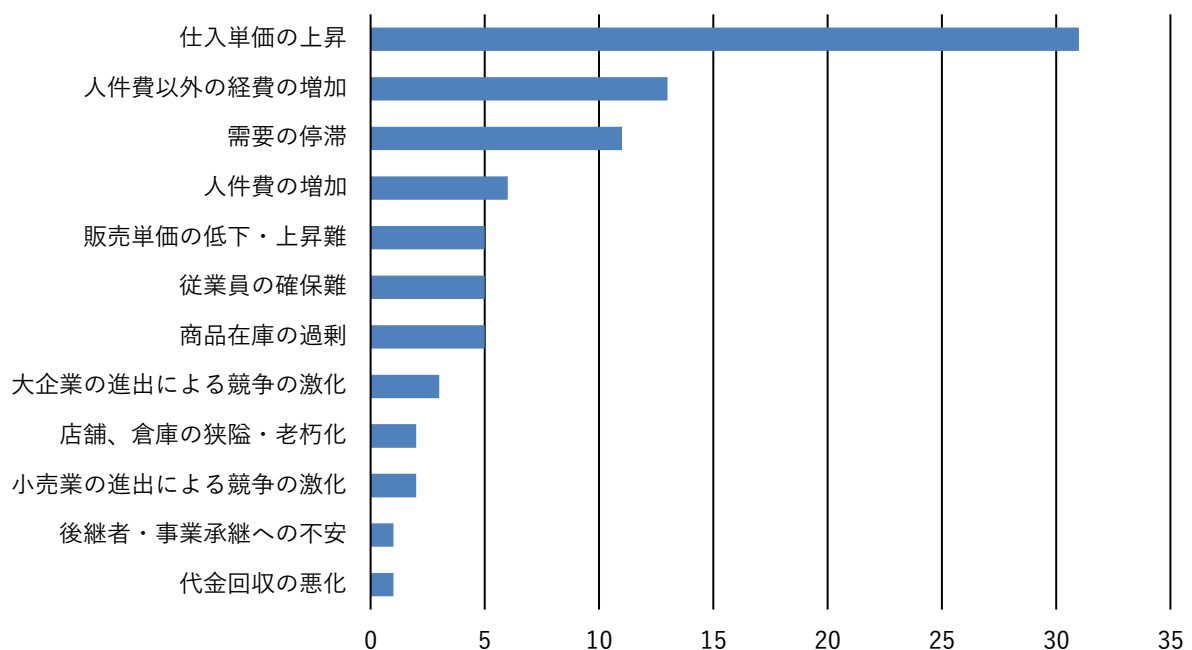
設備投資を実施した企業の割合は31.6%で、前年同期と比べ14.0%上昇しました。投資内容は1位が「土地」、「車両運搬具」（同位）、2位が「その他」でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は15.8%で、減少を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「需要の停滞」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- コロナ禍に伴う規制によって売上が低迷していた昨年同期と比べ好転した。（食料・飲料卸売）
- 大手部品メーカーの力が強まり困っている。（自動車部品）
- 売上が増加した。（事務用品）
- 販売量は減少したが販売価格を引き上げたため、売上は前年並みだった。粗利益は減少した。（鉱物・金属材料卸売）
- 雪解けが例年より早かったため、工事の始まりが早く、受注は悪くなかった。（建築材料）
- 仕入価格の上昇が業況に大きな影響を与えている。（石油卸売）
- 仕入が増えた分、売上が増えている。価格転嫁はそれなりにできている。（塗料販売）

## [来期の業況について]

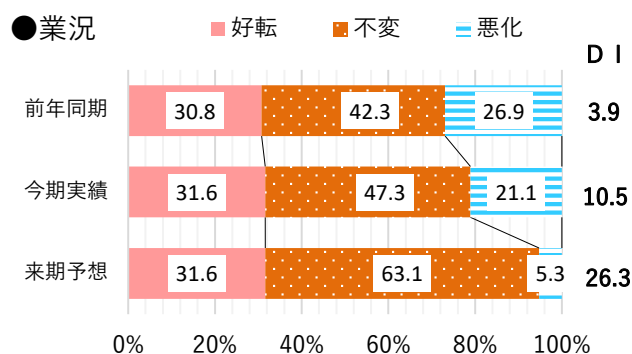
- 今後の新型コロナウイルスの状況に左右される。今期実績が、今後の業況を判断する一つの基準になると思われる。（食料・飲料卸売）
- 仕入単価の上昇を見込む。販売単価の引き上げは難しくなる。（食料・飲料卸売）
- 物価高と品不足が続く。ウクライナ侵攻の終結による経済の安定化を望む。（自動車部品）
- 今期に引き続き、売上の増加を見込む。（事務用品）
- 仕入価格が上昇すると販売量も減少するため、粗利益も減少する可能性が大きい。（鉱物・金属材料卸売）
- 今後の動きはあまり良くないという声が聞かれる。（建築材料）
- まだ仕入価格は上がると思われるので、価格転嫁できるかどうかが問題だ。（塗料販売）

# 小 売 業

## 業況、売上、採算

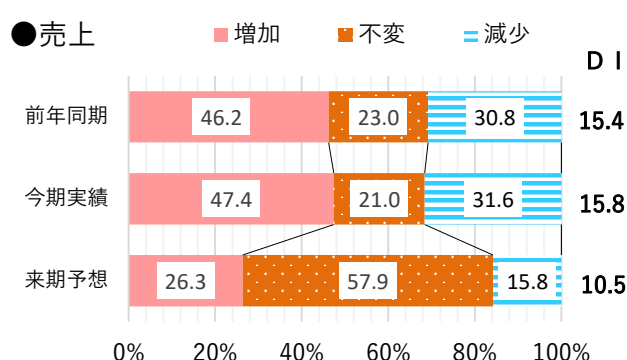
今期(2023.4~6)の業況判断DIは10.5で、前年同期(2022.4~6)と比べ6.6ポイント上昇しました。

来期(2023.7~9)は、業況の好転傾向が強まると予想しています。



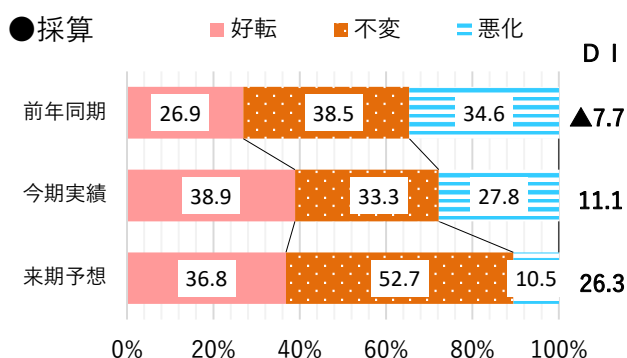
今期の売上高DIは15.8で、前年同期と比べ0.4ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。

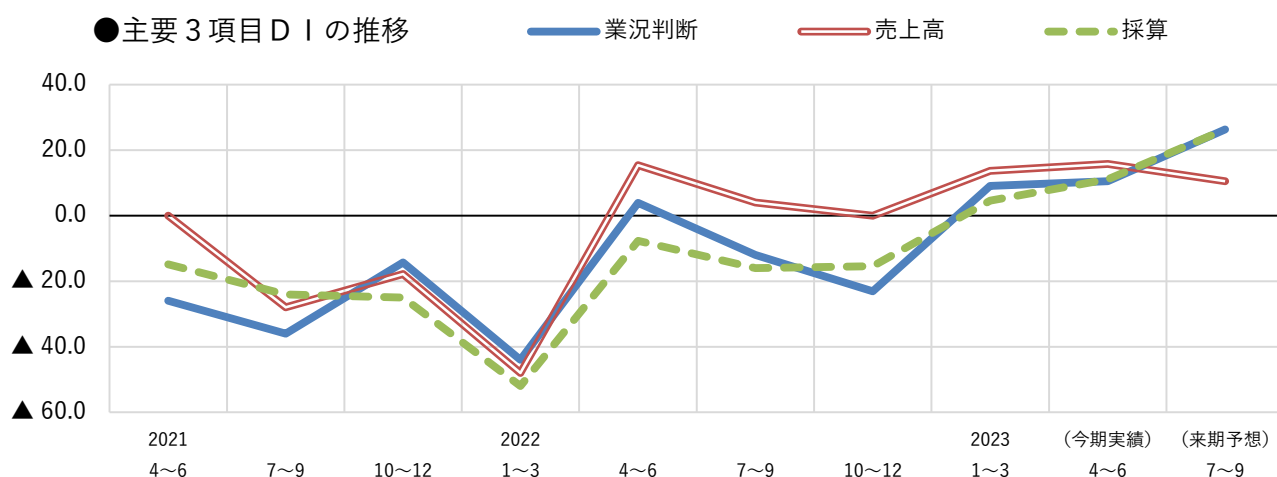


今期の採算DIは11.1で、前年同期と比べ18.8ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、採算の好転傾向が強まると予想しています。



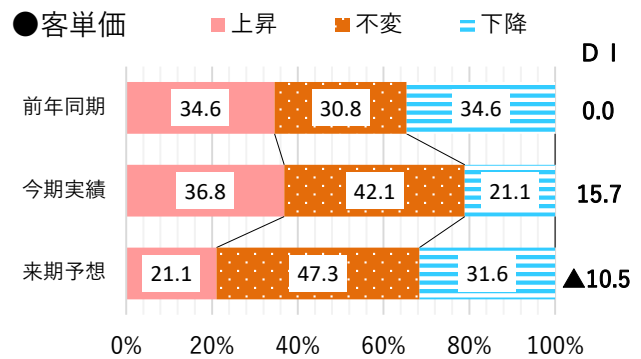
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

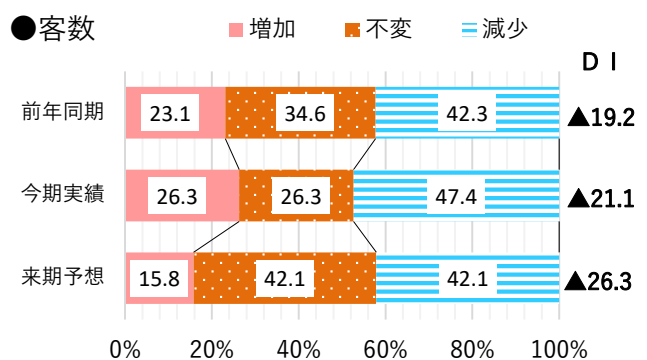
今期の客単価DIは15.7で、前年同期と比べ15.7ポイント上昇しました。

来期は、客単価がマイナスに転じると予想しています。



今期の客数DIは▲21.1で、前年同期と比べ1.9ポイント低下しました。

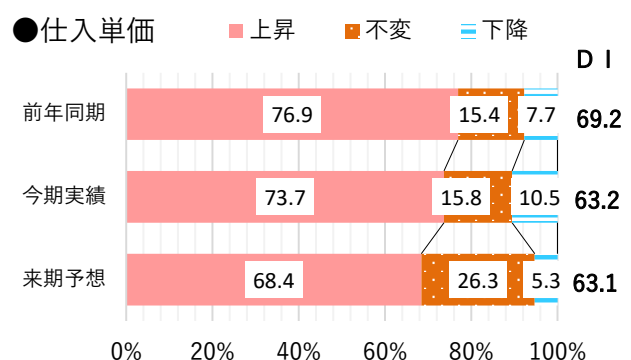
来期は、客数の減少傾向が続くと予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

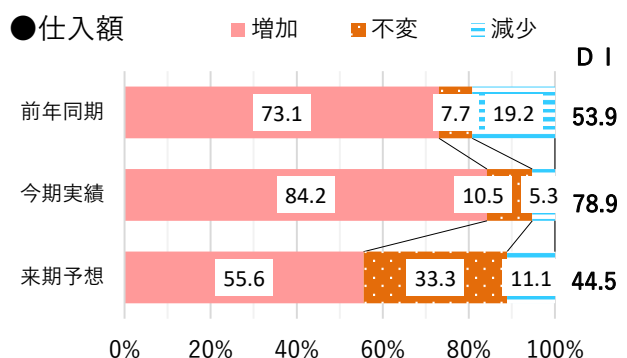
今期の仕入単価DIは63.2で、前年同期と比べ6.0ポイント低下しました。

来期は、仕入単価のほぼ横ばいを予想しています。



今期の仕入額DIは78.9で、前年同期と比べ25.0ポイント上昇しました。

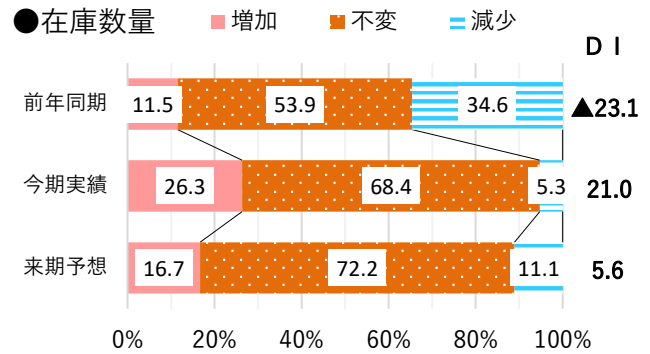
来期は、仕入額の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。





今期の在庫数量DIは21.0で、前年同期と比べ44.1ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

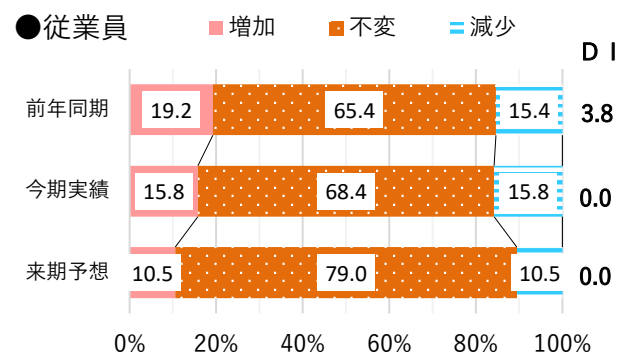
来期は、在庫数量の増加傾向が弱まると予想しています。



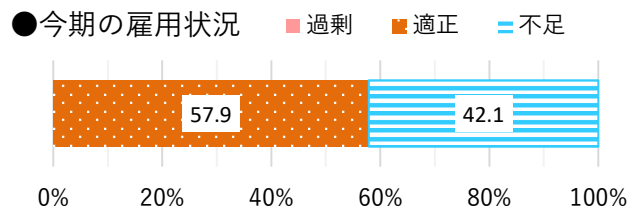
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ3.8ポイント低下しました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は57.9%、不足していると回答した企業の割合は42.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、47.3%を占めています。

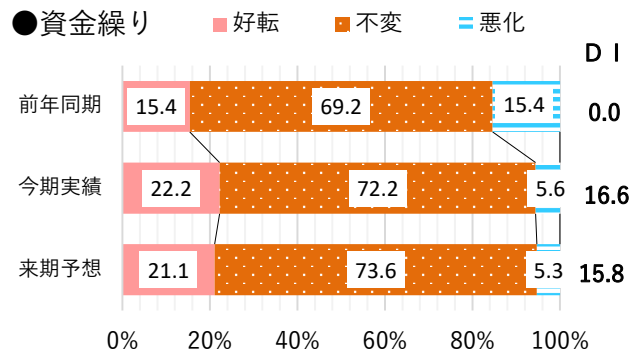
小売業全体では、約4割の企業で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	2

資金繰り、設備投資

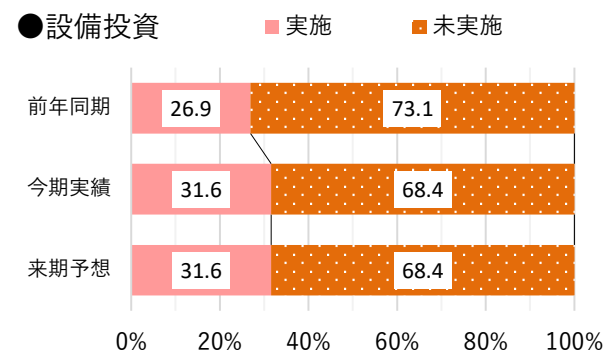
今期の資金繰りDIは16.6で、前年同期と比べ16.6ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



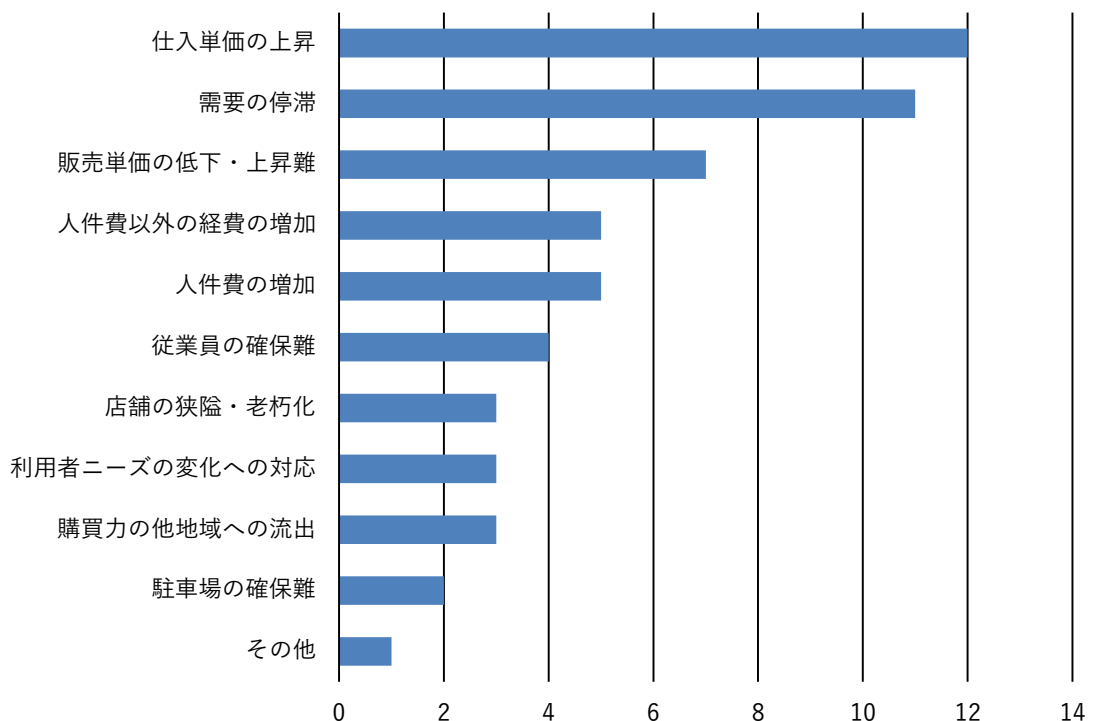
設備投資を実施した企業の割合は31.6%で、前年同期と比べ4.7%上昇しました。投資内容は1位が「OA機器」、  
「車両運搬具」（同位）、2位が「店舗」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は31.6%で、横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「販売単価の低下・上昇難」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 観光入込客数が増加したことで、ホテルや飲食店への納品額が増加した。(食料品小売)
- コロナ禍による制限がなくなり、人の動きが目に見えて増え、会合等のお土産の受注が増えた。しかし、原材料価格の上昇分を価格転嫁できておらず、思ったほどの利益はない。(菓子製造小売)
- 仕入単価が高騰したが、販売価格に反映できず収益が悪化した。(食肉小売)
- 長靴等の季節用品は閑散期のため売れなかった。食材の値上げが進んでおり、購入の優先度が低い身の回り品を買う余裕は消費者にはない。客単価の下降は当然だと思う。(衣服・身の回り品小売)
- 半導体不足によって新車の納期が遅れており、売上が立たない。注文すらできない商品もあり、市場のニーズに答えられない状況だ。(自動車小売)
- 売上が増加した。(自動車小売)
- 電気代や物価の高騰により、消費者が家計の不安を感じており、出費を控えている。(家電量販店)
- 企画等の見直しを行ったことで、売上や粗利は計画以上に確保できている。上期の間に1年間の目途を立てておきたい。(大型店)
- 商品単価の引き上げに伴う客単価の上昇が顕著だった。(大型店)
- 施設全体の客数が戻ってきている一方で、当店の客数は減少傾向にある。売上は家具、インテリア用品ともに減少した。(ホームセンター)
- 客数の減少が大きく、見込んでいた売上を達成できていない。人材は学生のアルバイトでまかなっている状況だ。(ホームセンター)
- 新型コロナウイルスの5類移行により、売上が好転した。(コンビニ)
- 新型コロナウイルスの5類移行に伴い、消費活動の活発化を感じる。売上は増加しているが、仕入単価や人件費の増加もあり、利益としては微増と思われる。(ドラッグストア)

## [来期の業況について]

- 後志管内の農産物や加工品の評価が高まり、店頭への来店客数ならびに客単価の上昇につながっている。この傾向は来期以降もますます顕著になると予想される。(食料品小売)
- このまま客足が増えれば良いと思うが、まだ楽観できない。電気料金の値上げに合わせ、商品価格の引き上げも考えていかなければならない。(菓子製造小売)
- 仕入価格の高騰に伴う収益の悪化が続くと思われる。(食肉小売)
- 高齢者が経営している店舗や個人商店の廃業が急速に進むのではないか。(衣服・身の回り品小売)
- 半導体不足は続くが、在庫整備の単価は上昇しているので何とか乗り切りたい。(自動車小売)
- 引き続き売上の増加を見込む。(自動車小売)
- 光熱費が上昇しているので、省エネや低燃費といった特徴がある高単価商品への注目が高まれば、販売のチャンスが見えてくるかもしれない。(家電量販店)
- 人件費、施設管理費の増加が負担となるため、売上高の底上げが最重要課題だ。(大型店)
- 売上増加による経常利益の増加が見込まれる。(大型店)
- 売上の増加は見込めない。プライベートブランド品等、粗利が大きい商品を売り込んで利益を確保していきたい。(ホームセンター)
- 天候に左右されるが、業況の好転に期待する。(コンビニ)
- 引き続き売上の増加傾向を見込むが、仕入単価や人件費の上昇も続くと思われるので、利益が取れるかを考えていく必要がある。(ドラッグストア)

# 運輸・倉庫業

## 業況、売上、採算

今期（2023.4～6）の業況判断DIは13.3で、前年同期（2022.4～6）と比べ36.8ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

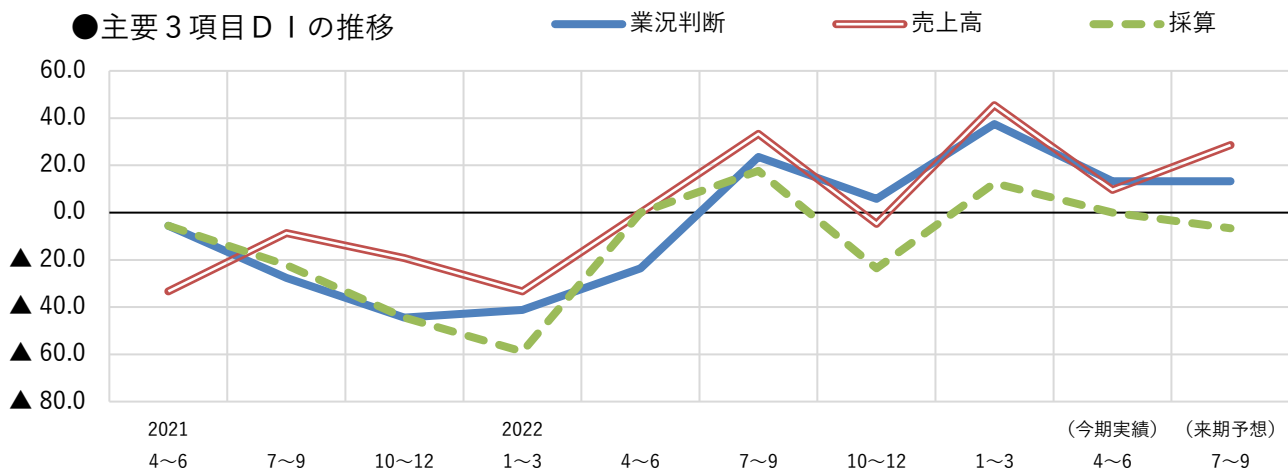
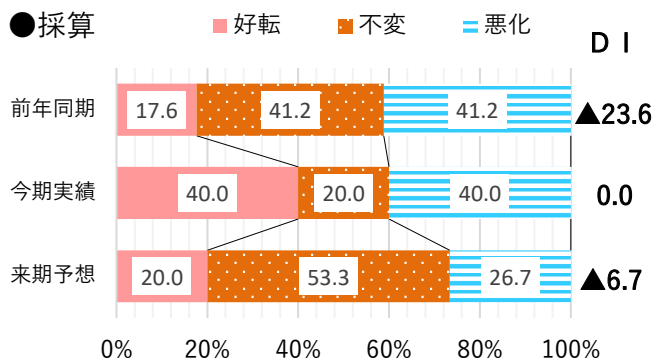
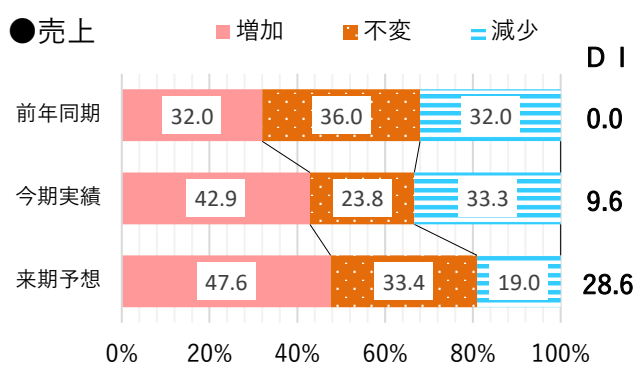
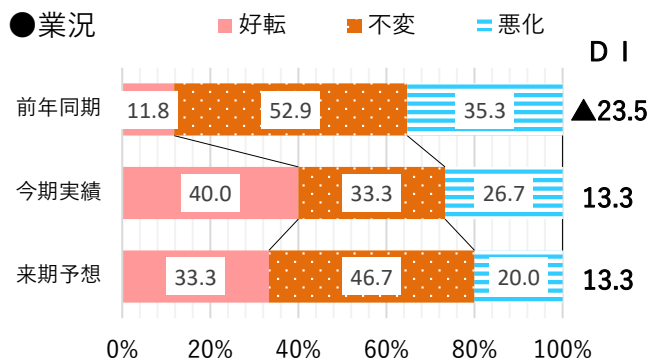
来期（2023.7～9）は、業況の横ばいを予想しています。

今期の売上高DIは9.6で、前年同期と比べ9.6ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が強まると予想しています。

今期の採算DIは0.0で、前年同期と比べ23.6ポイント上昇しました。

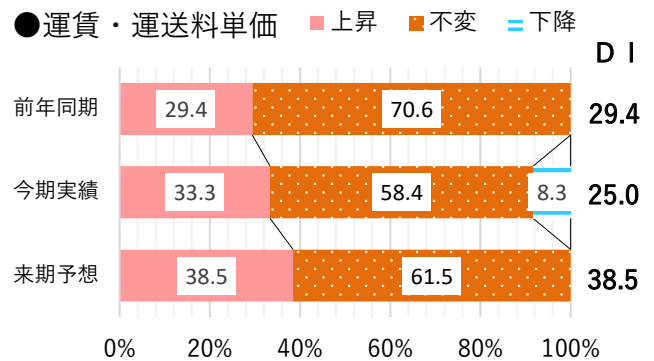
来期は、採算の悪化を予想しています。



運賃・運送料単価、保管料単価

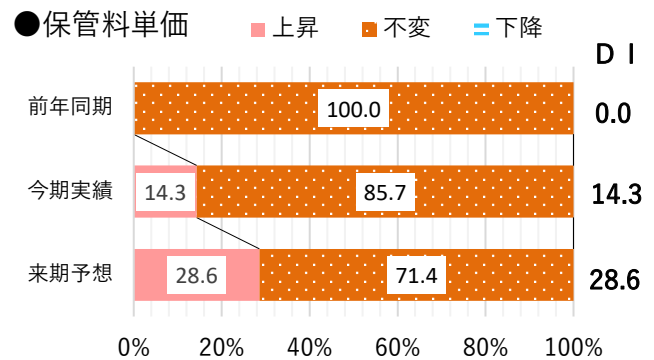
今期の運賃・運送料単価DIは25.0で、前年同期と比べ4.4ポイント低下しました。

来期は、運賃・運送料単価の上昇傾向が強まると予想しています。



今期の保管料単価DIは14.3で、前年同期と比べ14.3ポイント上昇しました。

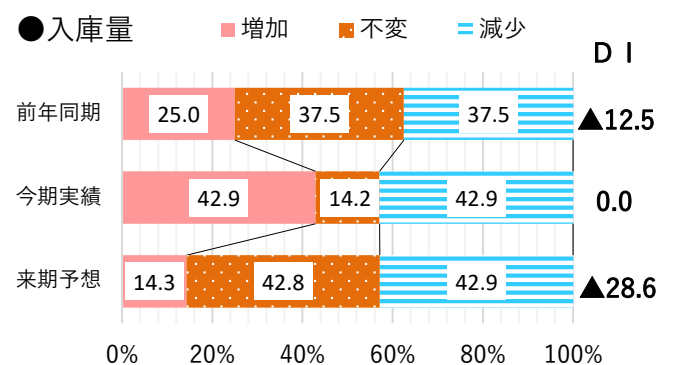
来期は、保管料単価の上昇傾向が強まると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

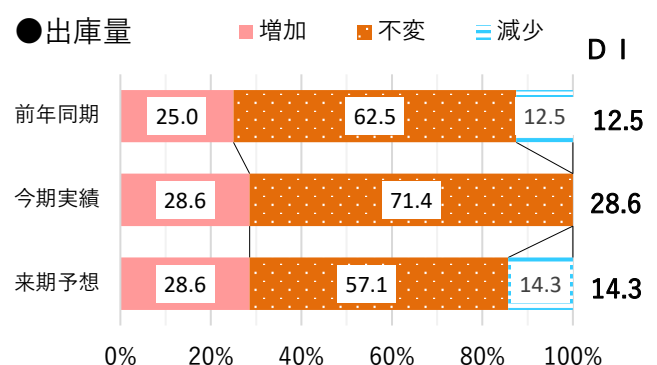
今期の入庫量DIは0.0で、前年同期と比べ12.5ポイント上昇しました。

来期は、入庫量の減少を予想しています。



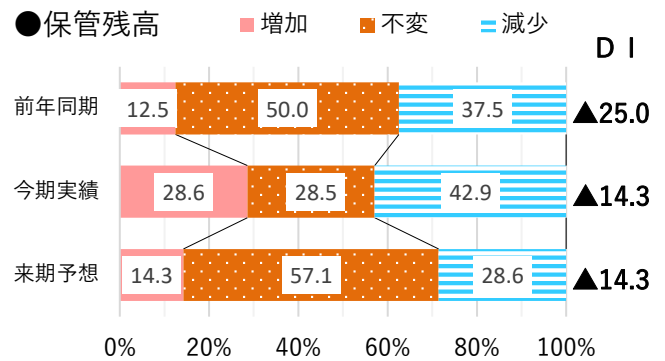
今期の出庫量DIは28.6で、前年同期と比べ16.1ポイント上昇しました。

来期は、出庫量の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の保管残高DIは▲14.3で、前年同期と比べ10.7ポイント上昇しました。

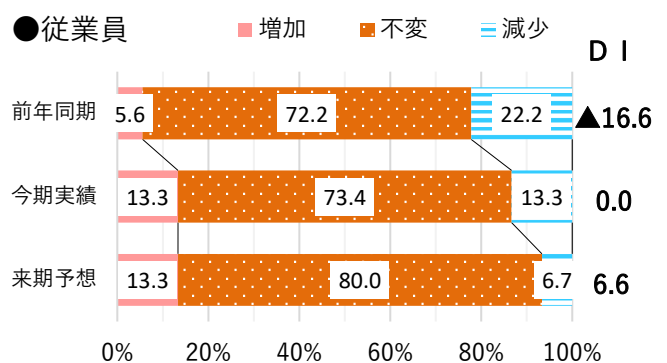
来期は、保管残高の横ばいを予想しています。



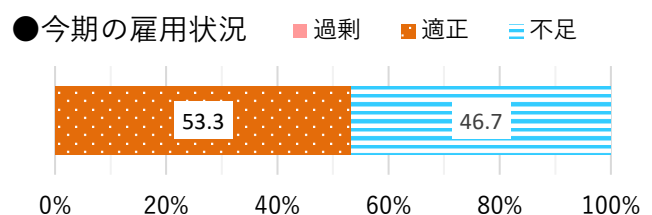
### 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ16.6ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の増加を予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は53.3%、不足していると回答した企業の割合は46.7%でした。



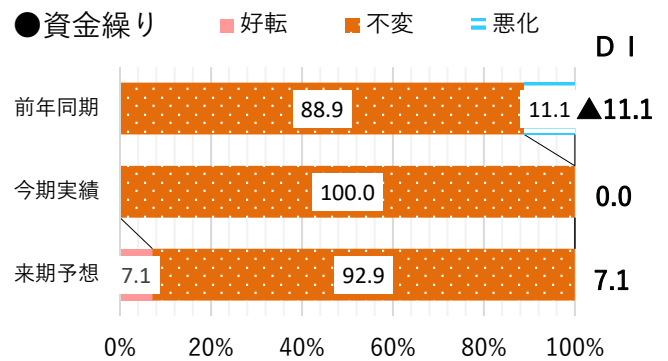
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、53.3%を占めました。残る46.7%の企業は従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	8
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

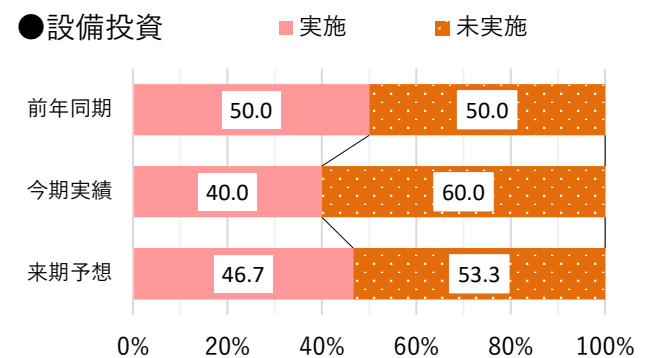
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ11.1ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの好転を予想しています。



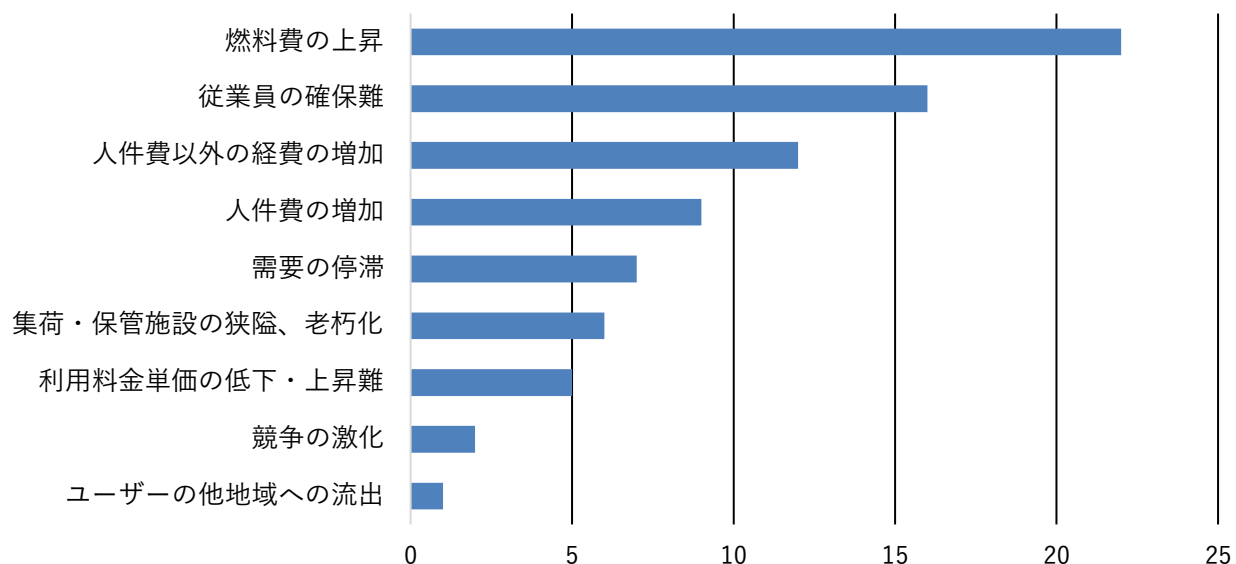
設備投資を実施した企業の割合は40.0%で、前年同期と比べ10.0%低下しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「店舗」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は46.7%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 米穀関連の入庫が伸びず、出庫が増えているため保管数量が減少し、売上が減少した。人件費は4月の改定により増加しており、厳しい状態だ。(道路貨物運送)
- 来道観光客数等の増加により、小麦粉の製造量および輸送量が増加している。(道路貨物運送)
- 燃料費、タイヤ代金、修理代金等の値上げによって採算が悪化した。(道路貨物運送)
- 新幹線工事等により運搬量が増加しており、業況は好転した。(道路貨物運送)
- 閑散期のため、大きな変動はなかった。(道路貨物運送)
- 売上は微増だったが、エネルギー関係の値上げが響いた。従業員を増やせなかった。(道路旅客運送)
- 売上は増加したが、燃料費、資材費、人件費等の上昇により業績が悪化した。(道路旅客運送)
- 売上が増加した。(道路旅客運送)
- 輸入冷凍水産物の入庫量が減少し、売上が減少した。(倉庫)
- 入庫量が増加した。(倉庫)
- 燃料費の上昇等により、売上に対する利益率が低下している。(港湾運送)
- 新型コロナウイルス流行に伴う行動制限がなくなり、全国旅行支援策も実施されたことで、コロナ前に迫る旅客需要となった。貨物は政府による燃料油価格激変緩和対策事業もあったが、物価上昇の影響で伸び悩んでいる。(水運)

[来期の業況について]

- 9月から繁忙期に入るため、業況が上向くよう期待している。(道路貨物運送)
- 新幹線工事等による業況の好転が続くと思われる。(道路貨物運送)
- 各種経費の値上げによる採算の悪化が続く。(道路貨物運送)
- 取引先との料金交渉の好転を見込む。(道路貨物運送)
- 今期同様好転要因がない。(道路貨物運送)
- お祭りやイベントによる売上増加に期待する。人材確保に取り組む。(道路旅客運送)
- 売上の増加と各種経費の増大が続く。(道路旅客運送)
- 今期同様、売上の増加を見込む。(道路旅客運送)
- 入庫量の減少及び出庫量の増加が予想される。(倉庫)
- 旅客の増加を見込む。貨物は作物の収穫期のため、数量の増加を見込む。(水運)

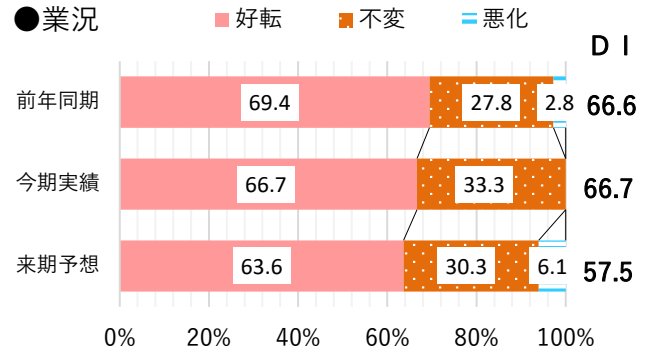


# 観光業

## 業況、売上、採算

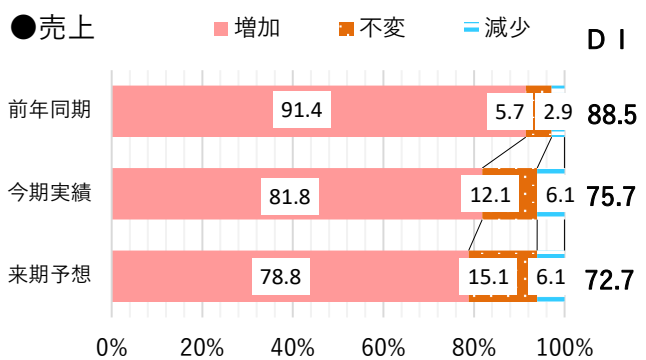
今期（2023.4～6）の業況判断DIは66.7で、前年同期(2022.4～6)と比べ0.1ポイント上昇しました。

来期（2023.7～9）は、業況の好転傾向が続くと予想しています。



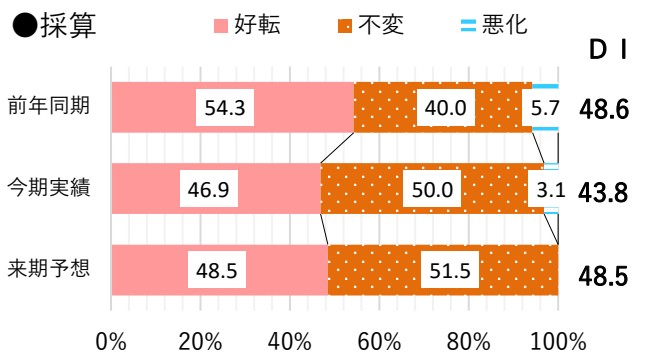
今期の売上DIは75.7で、前年同期と比べ12.8ポイント低下しました。

来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。

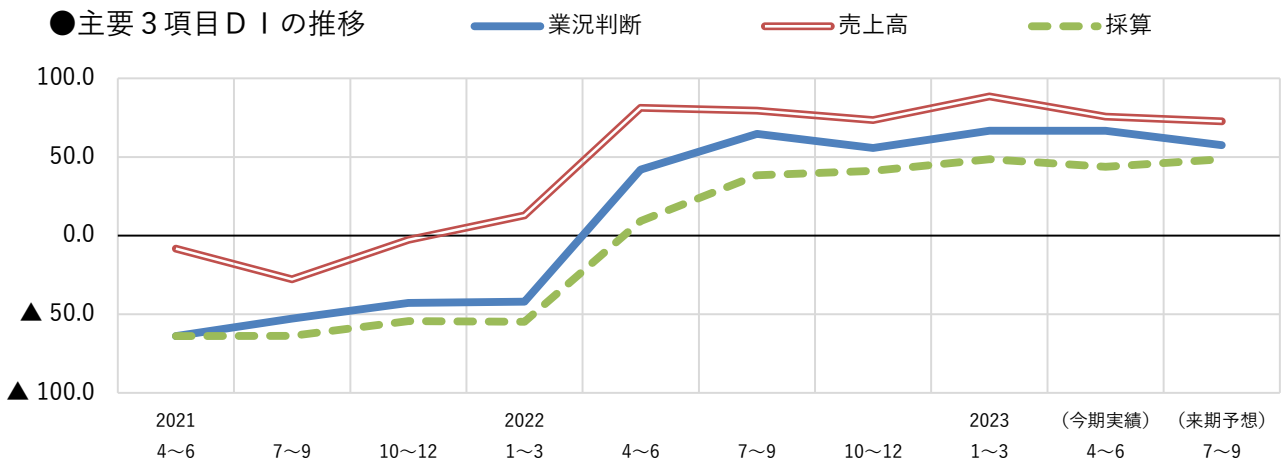


今期の採算DIは43.8で、前年同期と比べ4.8ポイント低下しました。

来期は、採算の好転傾向が続くと予想しています。



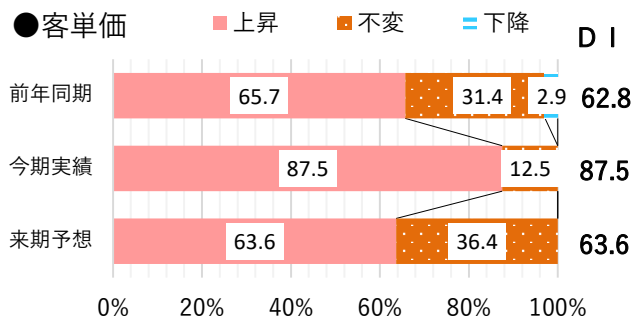
### ●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

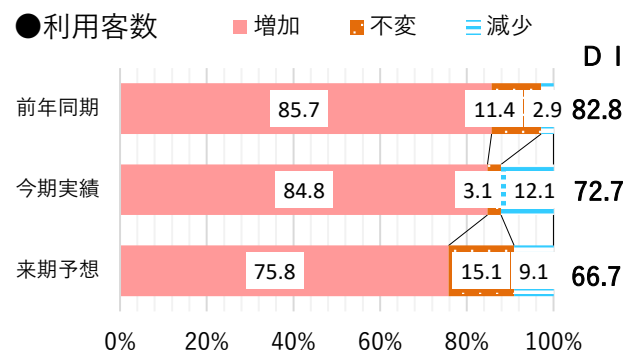
今期の客単価DIは87.5で、前年同期と比べ24.7ポイント上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が続くと予想しています。



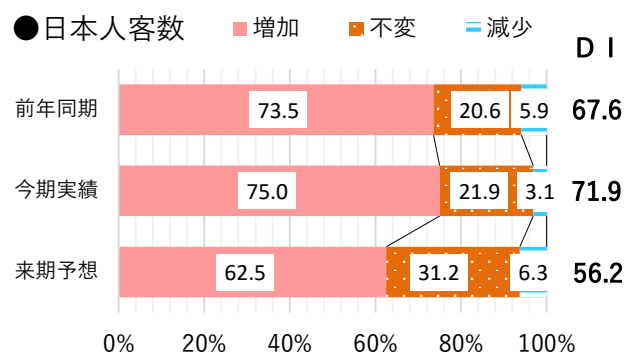
今期の利用客数DIは72.7で、前年同期と比べ10.1ポイント低下しました。

来期は、利用客数の増加傾向が続くと予想しています。



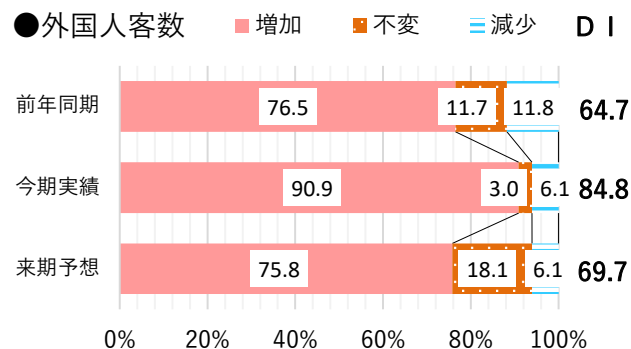
今期の日本人客数DIは71.9で、前年同期と比べ4.3ポイント上昇しました。

来期は、日本人客数の増加傾向が続くと予想しています。



今期の外国人客数DIは84.8で、前年同期と比べ20.1ポイント上昇しました。

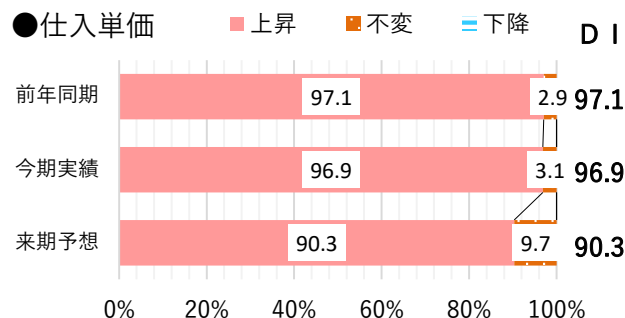
来期は、外国人客数の増加傾向が続くと予想しています。



## 仕入単価

今期の仕入単価DIは96.9で、前年同期と比べ0.2ポイント低下しました。

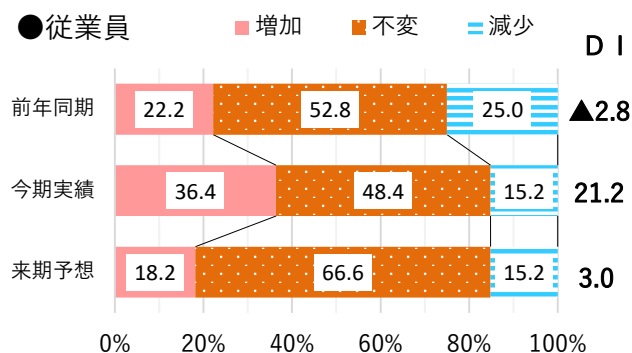
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



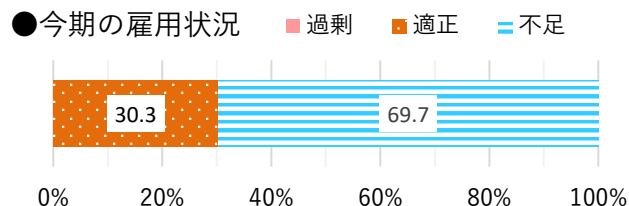
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは21.2で、前年同期と比べ24.0ポイント上昇しプラスに転じました。

来期は、従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は30.3%、不足していると回答した企業の割合は69.7%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、36.3%を占めました。回答全体では69.7%が従業員不足と回答しています。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	5
	不足	7
不変だった	過剰	0
	適正	4
	不足	12
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

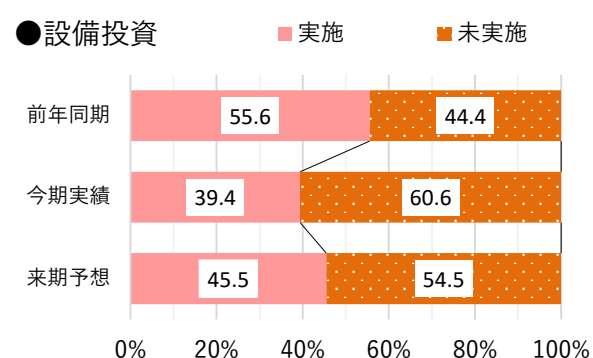
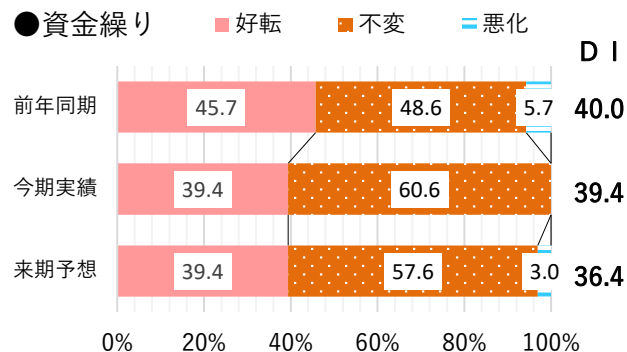
## 資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは39.4で、前年同期と比べ0.6ポイントと低下しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が続くと予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は39.4%で、前年同期と比べて16.2%減少しました。投資内容は、1位が「建物」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は45.5%で、増加を予想しています。

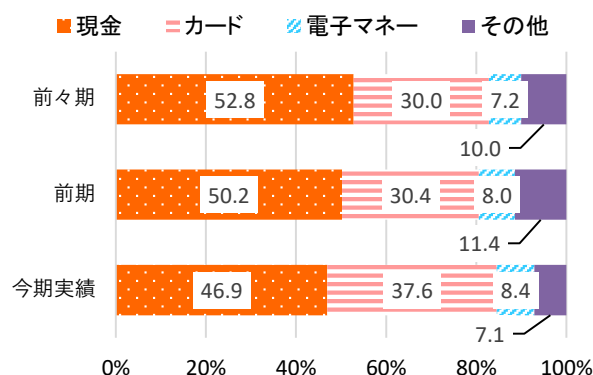


## 今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で46.9%、2位がカードで37.6%、3位が電子マネーで8.4%、4位がその他で7.1%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、銀行振り込み、掛け売り、クーポン券、金券、ポイントカードです。

●今期利用客の決済方法(%)

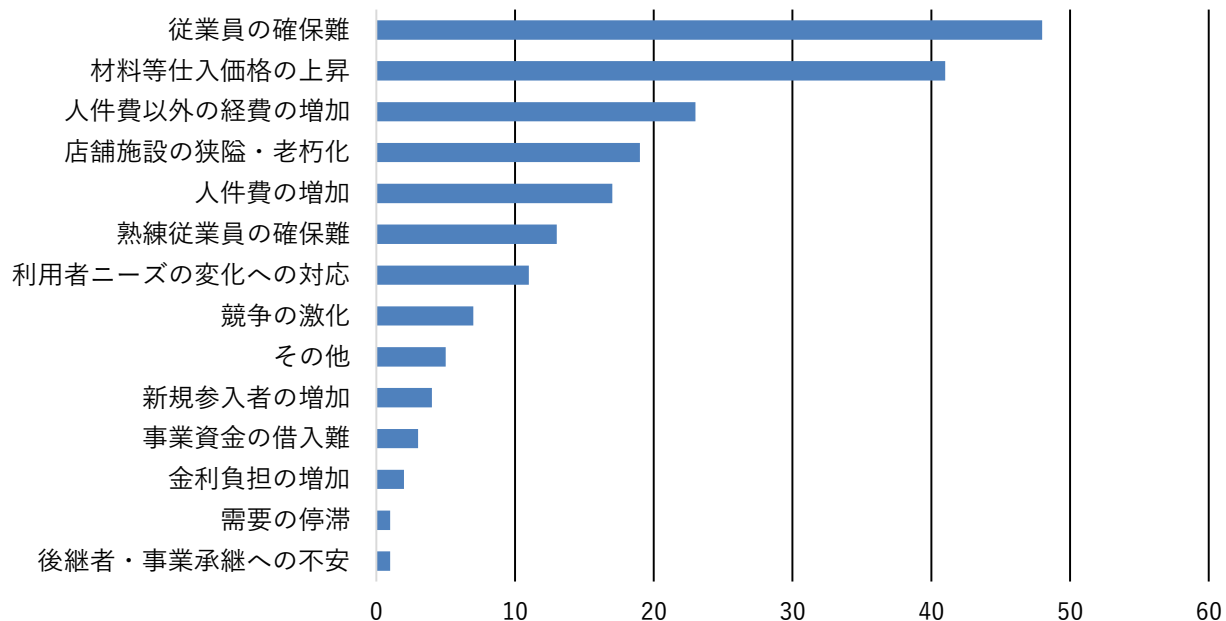


## 客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は57.3%でした。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- コロナ禍を脱したことで旅行需要が増加した。インバウンドの引合い等で売上は好転した。人材はかなり不足している。水道光熱費、仕入等経費は増加した。(ホテル)
- 売上は増加しているが重油や電力の価格高騰、人材確保による人件費の上昇、施設老朽化による修繕費の増加により大幅な好転とまでは言えない状況だ。(ホテル)
- 人材確保が困難なため、受入人数に制限をかけざるを得ない。仕入価格の上昇が課題だ。(ホテル)
- ゴールデンウィークの売上は好転したが、インバウンドが伸び悩んだ。(ホテル)
- インバウンド及び団体客が増加した。客室単価を改善した。(ホテル)
- 旅行支援の恩恵により、国内客とインバウンドが増加した。(ホテル)
- 4～5月で一時休業したため、売上が減少したが、客単価は上昇した。(コテージ・ペンション)
- 客数は増えており、前年同期比の売上は160%程で推移しているが、人材不足のため全ての座席を開放できておらず、販売機会を喪失している。(飲食店)
- 春からインバウンドが回復して助けられているが、日本人ツアー客はなかなか回復しないため、売上は微増だった。(飲食店)
- 客数は増えており、3分の1程度を外国人が占めている。しかし、スタッフが不足しているため、時短営業せざるを得ない状況にある。(飲食店)
- 昨年比で売上は増加し、集客もできているが、従業員を確保できていない。(飲食店)
- 仕入価格の上昇は仕方ないと思う。(飲食店)
- 新型コロナウイルスの5類移行により、団体バスを利用した国内外の観光客が増加した。外国人は韓国、香港、台湾、ハワイ、シンガポールからの来客が多い。国内の個人客はあまり増えていない(土産品)
- 海外の観光客、修学旅行客、一般のお客様全ての客数がコロナ禍前の水準まで戻っている。(土産品)
- インバウンドの増加により売上は回復したが、仕入価格が上昇し、人材不足が続いている。(土産品)
- 観光業は全体的に回復したが、中国人観光客はまだ回復していない。(土産品)
- 観光客等の増加に伴い売上が増加したが、人手が不足している。(土産品)

- 日本人客が増加した。(土産品)
- インバウンドの増加、客単価の上昇、イベントの再開等により需要が増加した。(レンタカー)
- 国内観光客とインバウンドがともに増加した。(レンタカー)
- 本年3月から入館料金を改定した。対前年比の入館者数は1～3月期で増加となったが、4月以降は減少した。入館料を引き上げた分、辛うじて増収増益を維持できた。(社会教育)
- コロナ禍が落ち着き、人流の回復、インバウンド需要の持ちなおしによる個人消費の増加によって、景況感が上向いている。(船舶貸渡業)
- 昨年同期比で客数が増加し、令和5年4月から料金の値上げを実施したため売上も大幅に増加した。従業員は新たに4名採用した。(水運業)
- 原価等は上昇しているが、利用料金引き上げによって販売額が増加した。(娯楽業)

#### [来期の業況について]

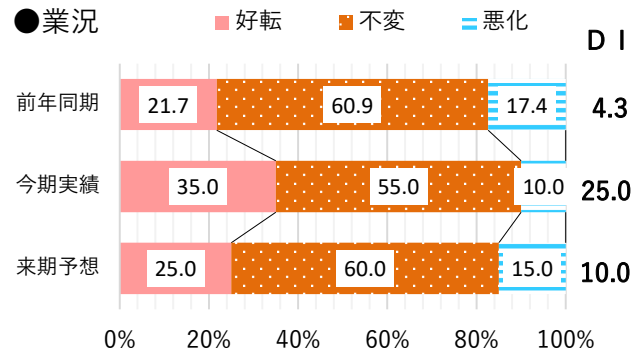
- コロナ禍によってインバウンドが減少傾向にあったが、パート従業員を解雇しなかったため、今後の客数増加に問題なく対応でき、売上の増加が見込まれる。(ホテル)
- 客単価は上昇する見込みのため、大幅に稼働を上げるのではなく、変動コストを考慮しつつ稼働率を調整する。人材確保が急務だ。(ホテル)
- 好転を見込むが、各種経費の上昇により大幅な好転は期待できない。(ホテル)
- 予約状況は堅調だが、インバウンドの回復が遅れている。(ホテル)
- 人材不足が続くため、受入人数の制限が続く。(ホテル)
- 主にインバウンドの回復による好転を見込む。(ホテル)
- インバウンド、団体客の増加傾向が続く。(ホテル)
- インバウンドによる売上の増加を見込む。(コテージ・ペンション)
- ある程度人材を確保できたので、客席を常時開放できる状態になれば、売上は増加する。(飲食店)
- 売上、客数ともにさらに伸長すると思われるが、人材確保が課題だ。(飲食店)
- スタッフ不足のため時短営業を続ける。(飲食店)
- 今期同様かそれ以上の業況を見込む。(飲食店)
- 7月から中国本土の観光客増加も見込める。秋の団体バスの予約が多く、売上に期待できる。コロナ融資の返済が始まったため、資金繰りや採算に大きな変化はないだろう。(土産品)
- 物価や仕入単価等は上昇傾向にあるが、観光客も戻ってきているので好転を見込む。(土産品)
- 新千歳ー北京間の航空便が再開されるため、客数の増加に期待する。(土産品)
- 中国人を中心としたインバウンドの増加を見込む。(土産品)
- 国内観光客、インバウンドの客数ともに今期と同程度で推移すると思われる。(レンタカー)
- 客数や需要の回復傾向が続くと思われる。(レンタカー)
- 学校団体の来館者数に復活の兆しがある。ゴールデンウィークの状況を鑑みるに、夏休みの国内旅行増加にも期待できる。(社会教育)
- 人流の回復、インバウンド需要の持ちなおしが続くだろう。(船舶貸渡業)
- 繁忙期にあたるため、乗船客数と売上の増加が見込まれる。(水運業)
- 今期同様、値上げによる販売額の増加を見込む。(娯楽業)

# サービス業

## 業況、売上、採算

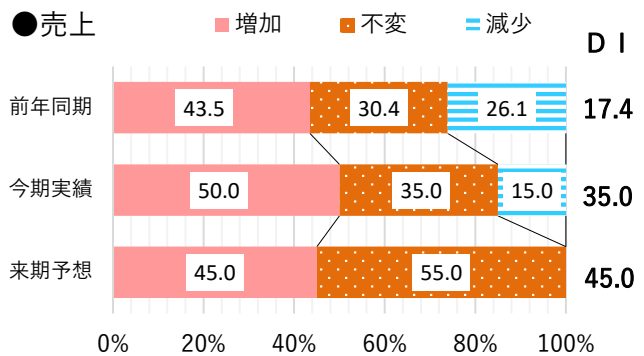
今期（2023.4～6）の業況判断DIは25.0で、前年同期（2022.4～6）と比べ20.7ポイント上昇しました。

来期（2023.7～9）は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



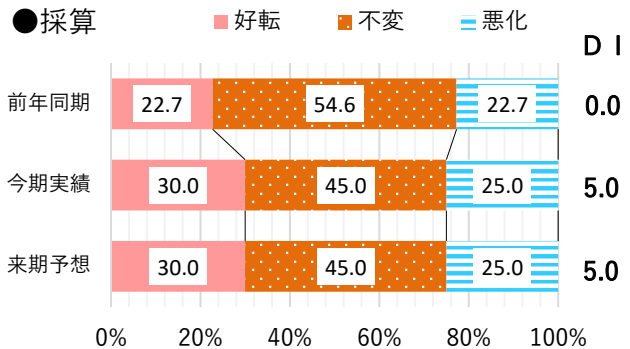
今期の売上高DIは35.0で、前年同期と比べ17.6ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が強まると予想しています。

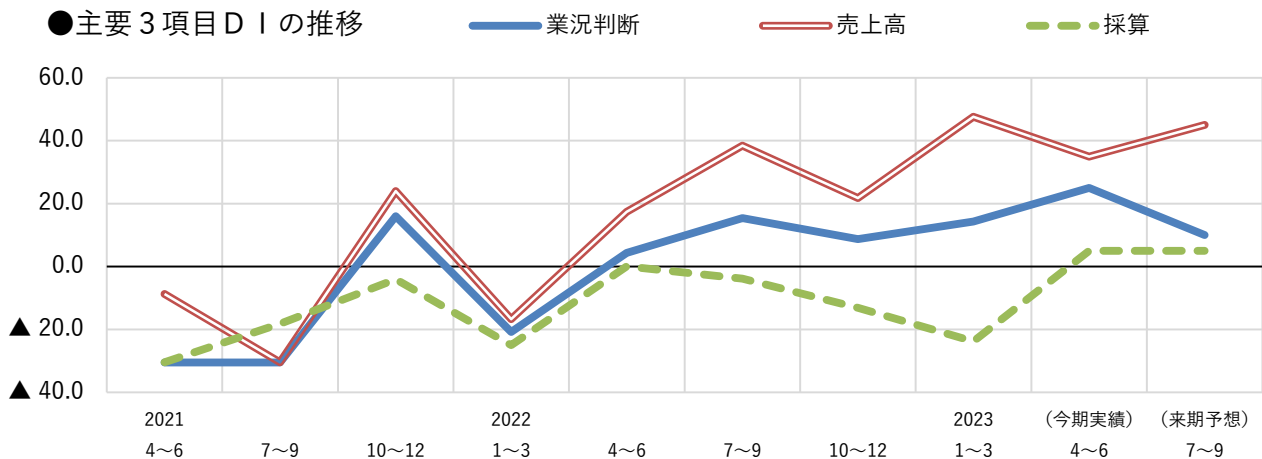


今期の採算DIは5.0で、前年同期と比べ5.0ポイント上昇しました。

来期は、採算の横ばいを予想しています。



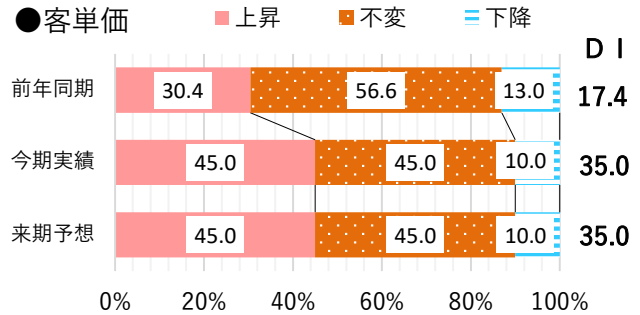
### ●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、仕入単価

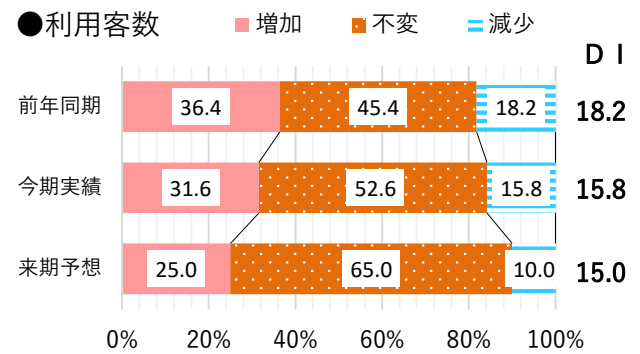
今期の客単価DIは35.0で、前年同期と比べ17.6ポイント上昇しました。

来期は、客単価の横ばいを予想しています。



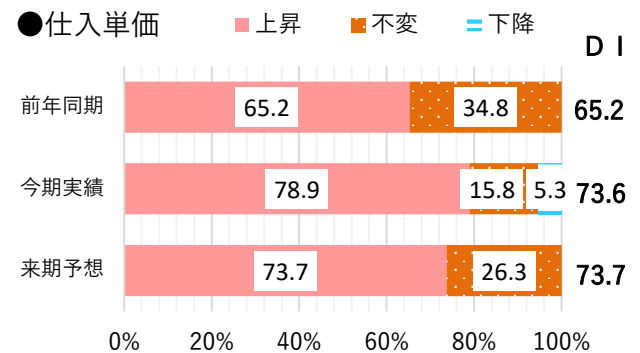
今期の利用客数DIは15.8で、前年同期と比べ2.4ポイント低下しました。

来期は、利用客数の増加傾向が続くと予想しています。



今期の仕入単価DIは73.6で、前年同期と比べ8.4ポイント上昇しました。

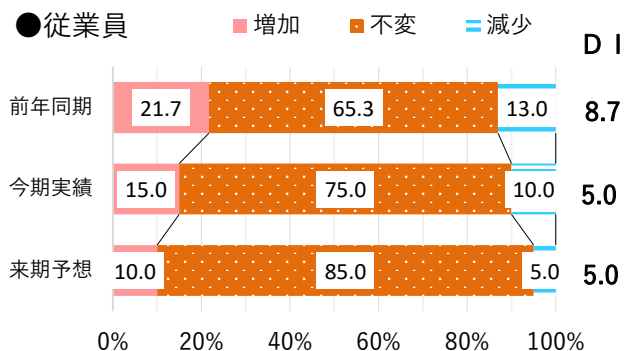
来期は、仕入単価のほぼ横ばいを予想しています。



従業員、今期の雇用状況

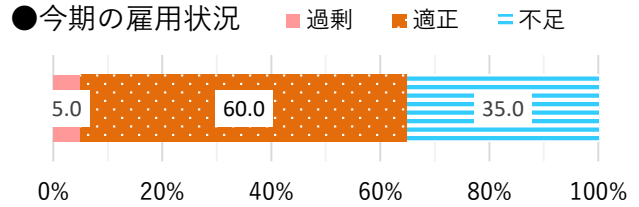
今期の従業員数DIは5.0で、前年同期と比べ3.7ポイント低下しました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。





今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.0%、適正であると回答した企業の割合は60.0%、不足していると回答した企業の割合は35.0%でした。



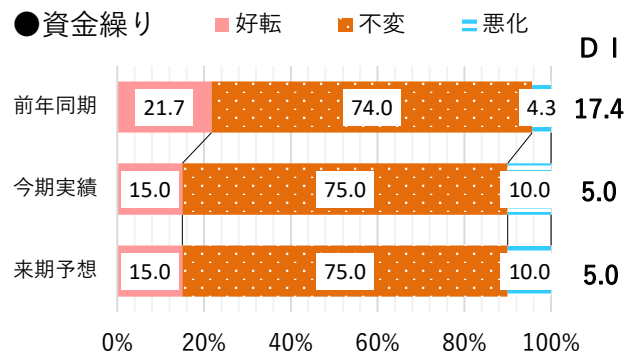
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、55.0%を占めました。回答全体では、35.0%で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	1
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	11
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

### 資金繰り、設備投資

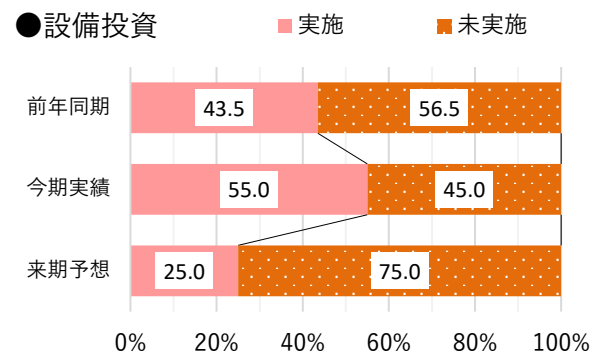
今期の資金繰りDIは5.0で、前年同期と比べ12.4ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。



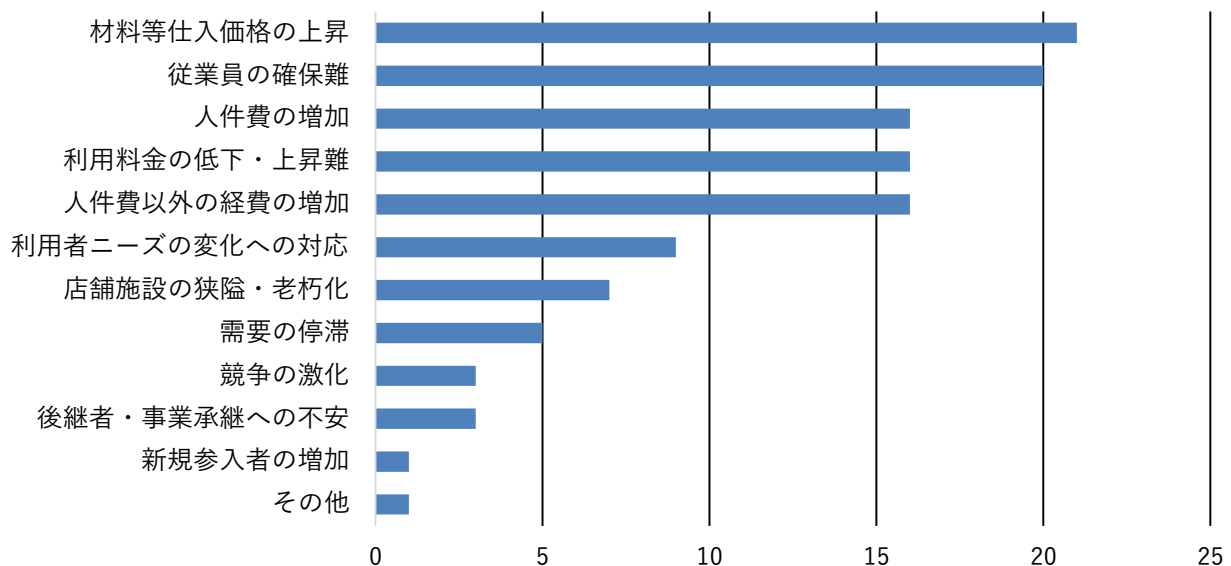
設備投資を実施した企業の割合は55.0%で、前年同期と比べ11.5%増加しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「付帯施設」、「OA機器」、「その他」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は25.0%で、減少を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」、「利用料金の低下・上昇難」、「人件費以外の経費の増加」（同位）の順です。



## 企業の声

### [今期の業況について]

- 観光客の増加で売上が伸びているが、仕入価格その他経費は増加している。経常利益はそこそこ確保できている。（飲食店）
- ヘアスタイルを変える方が多い季節で、新型コロナウイルスの5類移行も重なり、外出の機会が増えたため、客数が増えた。仕入価格は上昇傾向にある。人材確保の状況や給与に変化はない。（美容業）
- 仕入単価の上昇により、経費が増加している。（ビルメンテナンス）
- 売上が増加した。（ビルメンテナンス）
- 売上は不変だった。原材料費や電気料金の増大が収益を圧迫している。（情報処理・提供サービス業）
- 市内客の動きが鈍化しており、取引価格も下降傾向にある。（不動産代理・仲介業）
- プレー料金を引き上げ、スタッフを増員した。（スポーツ施設）
- 季節ものの受注や定例的な業務の受注は確保できているが、仕入単価の上昇に伴い、代金を値上げせざるを得ない状況だ。（写真業）
- デジタル化の波により、業況は悪化している。（写真業）
- 利用客数が減少した。（写真業）
- 仕入先のメーカーから多数の値上げ受け入れ要請がある。人材は部署により過不足が生じているが、全体として不足しており、従業員の確保が課題だ。（各種物品賃貸業）

### [来期の業況について]

- 今期同様、客数と経費の増加が続くと思われる。（飲食業）
- 秋になるとまた電気料金や物価が上がるため、駆け込みの来客が増えると思う。売上は天気や気温にも左右されるので、猛暑なら客数や客単価が伸びると思う。（美容業）
- 今期に引き続き、売上の増加を見込む。（ビルメンテナンス）
- 未受注が多く売上は悪化する見込みだ。仕入価格は原材料、電気料金などの増大で上昇すると思われる。（情報処理・提供サービス業）

- 大きな変化はないと思うが、高齢化が進行すると、取引の鈍化や価格の低下が進むと思われる。  
(不動産代理・仲介業)
- 仕入単価の上昇に伴う値上げにより、受注の減少が懸念される。(写真業)
- 業況はさほど変わらないと思うが、物価の高騰は厳しい。(写真業)
- イベントの時期ではないため、厳しいだろう。(写真業)
- 顧客に対する値上げ交渉を継続する。人材確保に積極的に取り組む。(各種物品賃貸業)

# 建設業

## 業況、売上、採算

今期（2023.4～6）の業況判断DIは10.0で、前年同期(2022.4～6)と比べ14.5ポイント上昇しプラスに転じました。

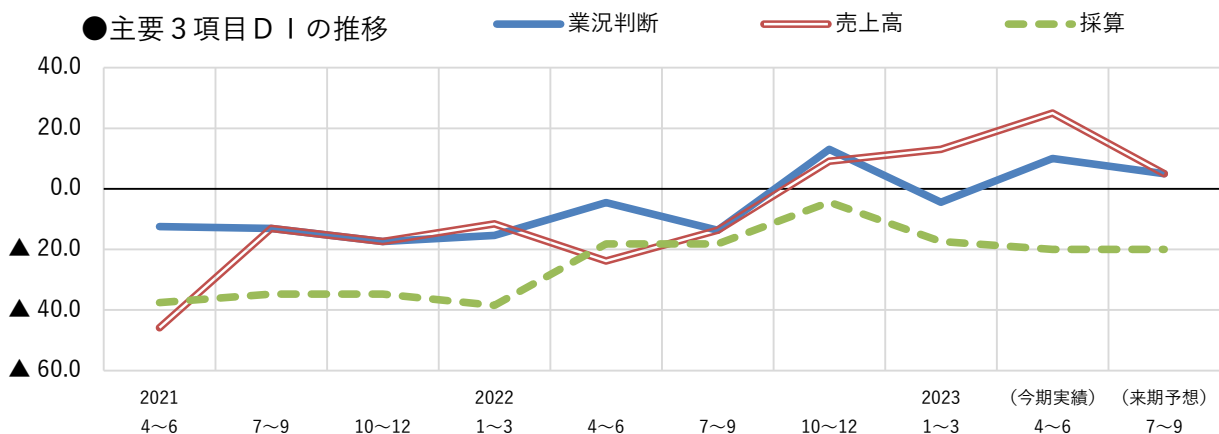
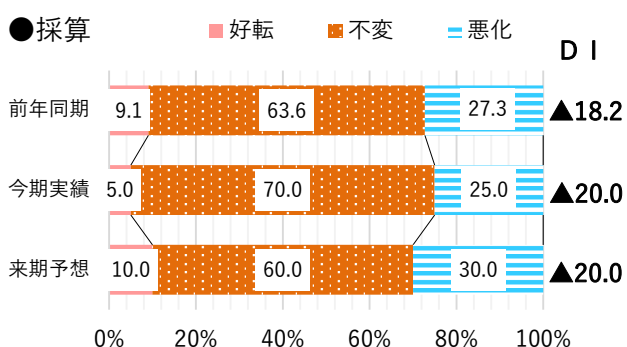
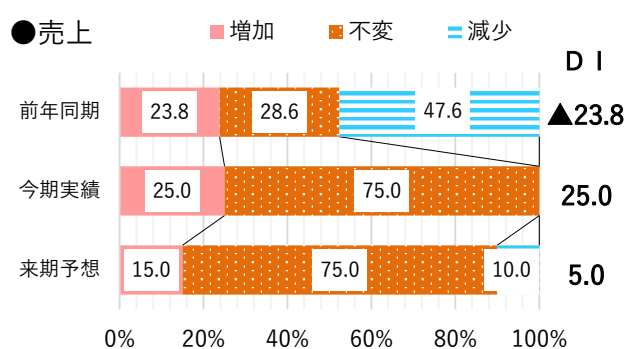
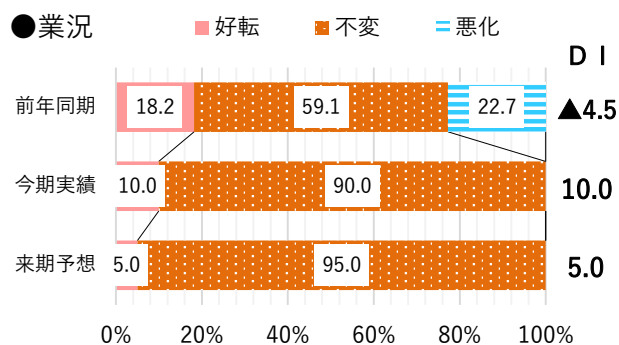
来期（2023.7～9）は、業況に大きな変化はないと予想しています。

今期の売上高DIは25.0で、前年同期と比べ48.8ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

今期の採算DIは▲20.0で、前年同期と比べ1.8ポイント低下しました。

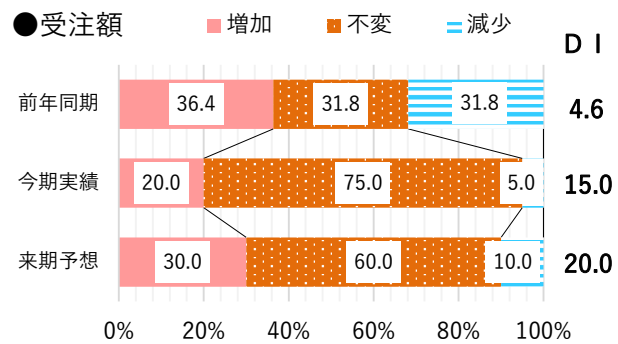
来期は、採算の横ばいを予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

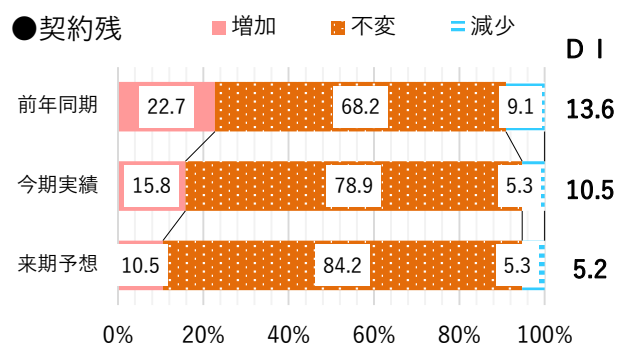
今期の受注額DIは15.0で、前年同期と比べ10.4ポイント上昇しました。

来期は、受注額の増加傾向が強まると予想しています。



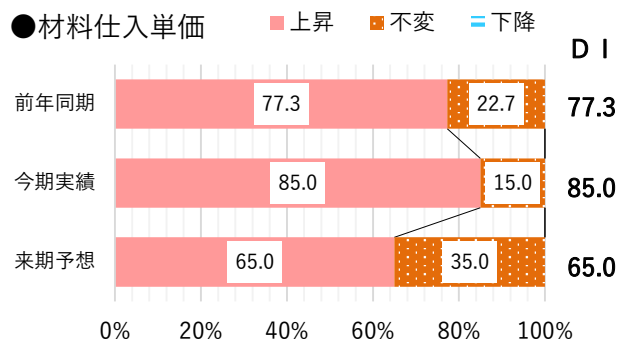
今期の契約残DIは10.5で、前年同期と比べ3.1ポイント低下しました。

来期は、契約残に大きな変化はないと予想しています。



今期の材料仕入単価DIは85.0で、前年同期と比べ7.7ポイント上昇しました。

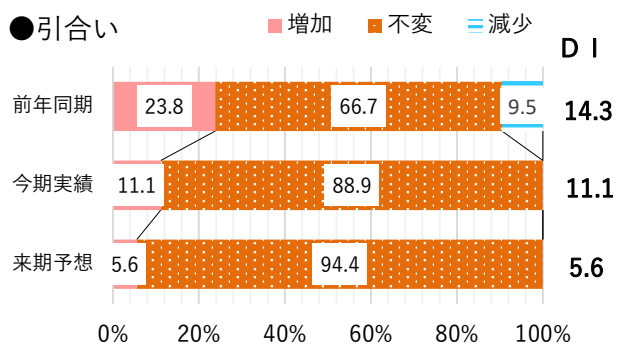
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは11.1で、前年同期と比べ3.2ポイント低下しました。

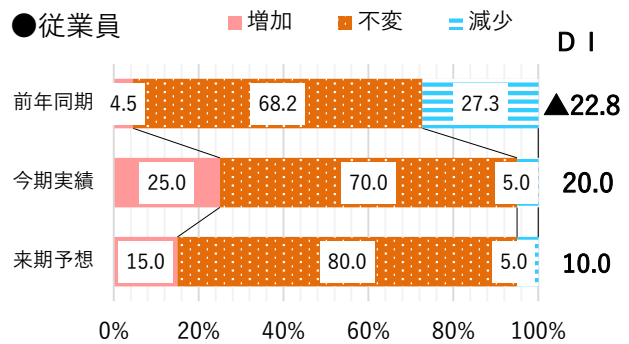
来期は、引合いに大きな変化はないと予想しています。



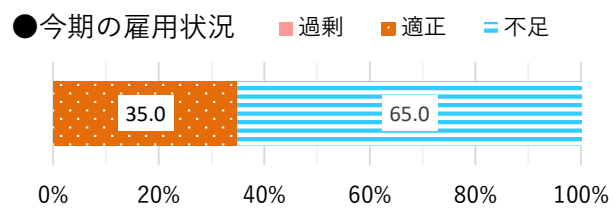
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは20.0で、前年同期と比べ42.8ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は35.0%、不足していると回答した企業の割合は65.0%でした。



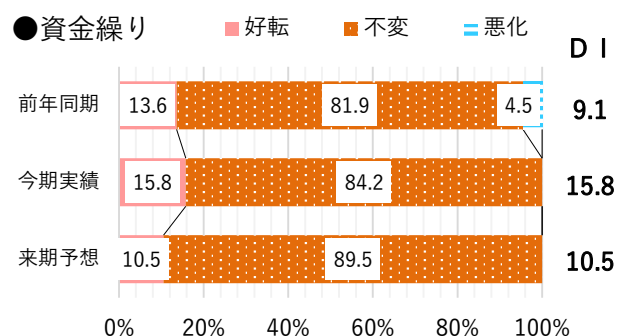
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、40.0%を占めました。回答全体では、65.0%が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	4
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	8
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	1

資金繰り、設備投資

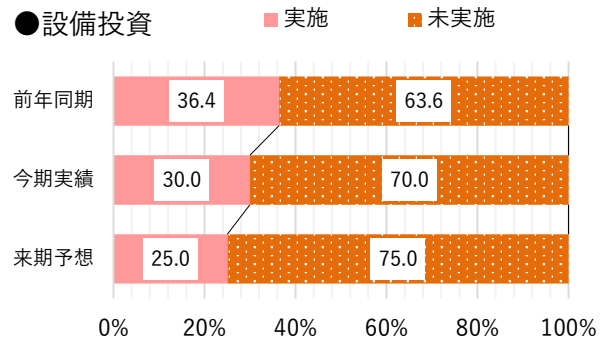
今期の資金繰りDIは15.8で、前年同期と比べ6.7ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



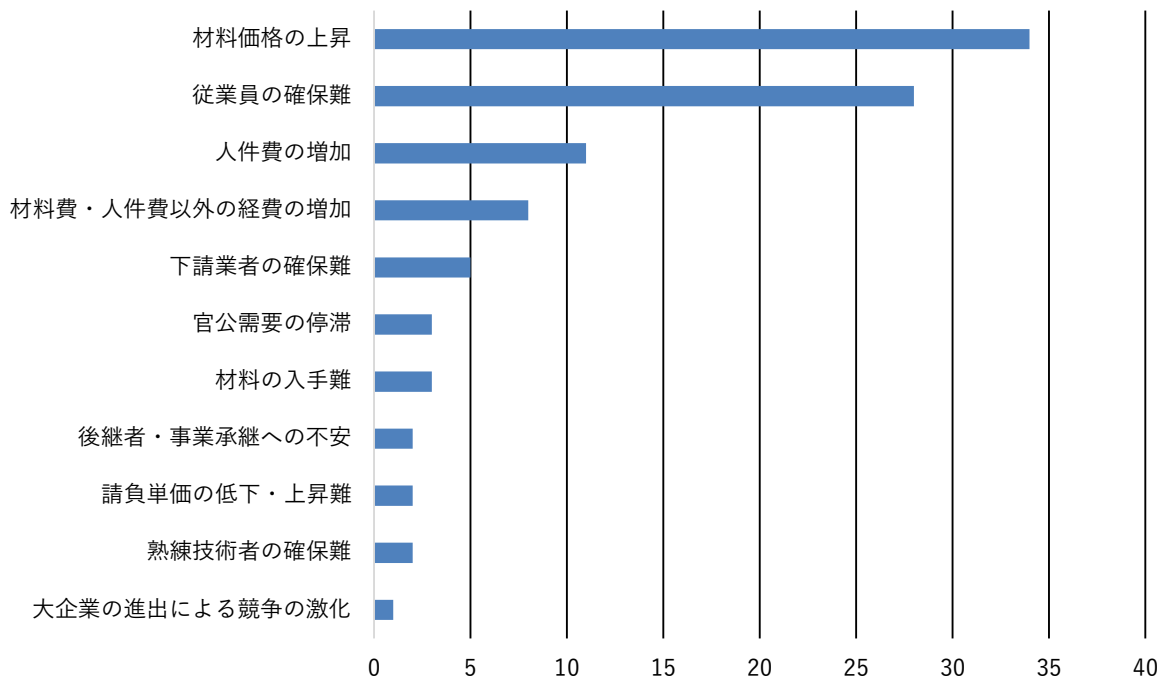
設備投資を実施した企業の割合は30.0%で、前年同期と比べ6.4%低下しました。投資内容は、1位が「OA機器」、2位が「土地」、「建物」、「車両運搬具」、「付帯施設」、「福利厚生」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は25.0%で、減少を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 仕入価格の高騰、電気料金の上昇といったマイナス要因への対応が当面の課題だ。（一般土木工事業）
- 原材料高とB to Cにおける価格転嫁の難しさが大きな負担となってきた。（一般土木工事業）
- 人材確保が課題だ。（一般土木工事業）
- 受注が急増した。（一般土木工事業）
- 前年並みの状況だった。（一般管工事業）
- 前年同期比で売上が30%ほど増加したが、仕入単価も15%ほど上昇した。（職別工事業）
- 人材不足が課題だ。（職別工事業）
- 人材確保や人件費の増加に向けて準備したいが、不確定な要素が多く、予算の運用を見直す必要があると感じている。（設備工事業）

[来期の業況について]

- 仕入価格の高騰、電気料金の上昇への対応が続く。(一般土木工事業)
- 人材不足が続く。(一般土木工事業)
- 売上は15%程度増加する見込みだが、受注数は10%程減少する。(職別工事業)
- 人材不足が懸念される。(職別工事業)
- 官公庁からの受注増加に期待する。(造園業)



# 市内企業倒産状況

2023年4月~6月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は2件、前年同期比不変  
負債総額は1億5,000万円、前年同期比減少

	倒産件数	負債総額
	<b>2件</b>	<b>1億5,000万円</b>
前年同期比	件数 ±0件 (前年同期 2件)	負債 -1億7,500万円 (前年同期 3億2,500万円)
■4月 ポリ袋販売（負債6,000万円：販売不振による破産）の1件が発生した。		
■5月 なし		
■6月 飲食店経営（負債9,000万円：販売不振による破産）の1件が発生した。		

## 市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2023年4月~6月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は84件、前年同期比減少  
新設着工住宅戸数は44棟89戸、前年同期比減少

	建築確認申請受付件数	新設着工住宅戸数
	<b>84件</b>	<b>44棟89戸</b>
前年同期比	件数 -36件 (前年同期 120件)	戸数 -25棟16戸 (前年同期 69棟105戸)
※変更確認又は変更通知を除く。		